

情報連絡一覧票（10月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	パ ン	最低時給がアップした影響で、売上に対する人件費の割合が上がってきている。その時給に合わせた業務となると、スタッフへの負荷は増していると感じる。上記の状況を販売価格に反映はさせているが、その分お客様が減ったり、買い上げ点数が減ったりしており、物価上昇も引き続き進んでいて、業界としても閉店、倒産が増えている。
	酒 造	令和6年9月の清酒課税移出数量の特定名称酒は対前年比97.19%と下回った。内訳は吟醸酒94.29%、純米吟醸111.29%、純米酒89.83%、本醸酒93.82%となった。特定名称酒以外の普通酒は対前年比57.51%と下回り、合計で対前年比88.83%と前年を下回る結果となった。
	ひ も の	原材料・諸費用等コストの上昇分をすぐに単価へ反映させることが出来ず苦しいところである。物価上昇の影響で、消費額が減少し売上高は減少しているが、消費者数は増加の傾向にある。今後のお歳暮・ギフト等繁忙期にむけて稼働が上がっていくと期待をしている。
木材・木製品	家 具	①再度円安の局面となり、原材料の値上げに警戒感が高い。国産材（シナなど）への切り替え、ラワンからポプラ材への切り替えなど知恵を出している。②賃上げの圧力で人材の確保や定着に苦慮している。③受注は底入れ感があり今後期待感がある、との声もある。当組合では、前期の技能検定の実技試験を実施し、受検者は、30名と例年より増加している。1級技能士が多く誕生し、技術の向上意欲は高いものがある。
印刷	製 本	昨年同月と比べると仕事の動きは少なかった。しかし、県内の印刷会社・製本会社の廃業により引き合いは増加傾向にある。仕事量も減少しているが企業数も減少しているので繁忙期に入ったときにパンクしてしまう危険性が高まっている。近隣の同業者との連携を強化していくことが急務である。組合活動としては、組合員が1社10月で廃業した。
化学・ゴム	石 油 製 品	組合員から今月も、「収益不変、原材料の値上げは継続」、「引き続き半導体生産面積が拡大しているが、上流工程での受注は軟調で、回復にはもう少し時間がかかる見込み」、「造船業界の修理間隔の変更により受注の変動が大きくなった。」及び「為替変動の価格転嫁が追いついておらず、下期もスタートとしては採算が厳しい。また、在庫増によりキャッシュフローの悪化を感じる。」とそれぞれ情報が寄せられた。
窯業・土石製品	砕 石	少しずつ生コンクリートの出荷が増加してきたため、骨材の出荷も増加したが、前年に比べ骨材の出荷は減少している。
鉄鋼・金属	工 業 塗 装	主力の防衛産業が好調で大幅な増収増益である。後は政局の安定を希望する。
	工 業 団 地	10月の共同受電使用量は前月比-13.51%となった。（前年同月比+4.25%）9月までの猛暑が10月は落ち着き、エアコン使用が減少したことが要因である。鑄造業では、原材料費の高騰・エネルギーコスト増加・働き方改革による人件費の高騰等により経営環境が厳しさを増す中、製品への価格転嫁が進まないため事業継続が困難と判断し12月末を目標に操業を停止することとなった。
	工 業 団 地	最低賃金改定が実施されたが価格転嫁が努力だけで終わると収益悪化に陥る懸念が心配である。ETC コーポレートカード利用金額が上昇しているため事業活動は活発になっていると思われる。
	金 属 製 品	景気が上向いているとは思われない。中小企業は青息吐息状態でこの現状をどう乗り越えるか試行錯誤している。それ以上に人材確保が厳しい現実。
輸送機器	艦 船 製 造 ・ 修 理	‘23年の日本の新造船竣工量は、4年ぶりに増加した。前年比1%増で970万総トン。日本のシェアは15.2%と成った。一方 ‘24年の持ち手工事量は5月末時点で62.1隻2,888万総トン、前月比で94万総トンの増加でおおよそ3.2年分と成る。
その他の製造業	工業中心の複合業種	会員の一部は好転の兆しが出て来たようであるが、8、9割りの企業が受注激減状況である。同じ地域の中でも受注ゼロになり、既に数社廃業している。会員企業も年内に廃業を予定している所も出ている。内閣は変わったが、経済は上向きになるのか今後が心配される。
	工業中心の複合業種	様々な業界で売り上げが前年同月比減となる傾向が見受けられる。半導体製造装置を始め設備投資が動き出している。金属相場の上昇に加えマージンアップも併せて販売価格の上昇に繋がっている。人材不足や人件費高騰に対しては自動化・効率化・環境対応などの新たな需要が期待でき、賃金上昇に繋がれば景気高揚が期待される。一方人材の確保には不安がある。中国経済の失速が今後どう影響してくるか不透明な部分がある。

情報連絡一覧票（10月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸売業	菓 子 卸	売上に関しては、10月はチョコレートや米菓の値上げが有り、増加傾向が続いているようですが、残暑の影響から数量的には、あまり伸びてはいないようです。
	卸 団 地	売上については、前年同月比で増加となったが、新型コロナ禍以前（4年前）と比較した場合、依然減収している状況。（一部の企業では4年前対比増収となっている。）取扱い商品・販売ターゲットによって、業績格差が顕著に表れている。アフターコロナによる世界的な需要増と、ロシアのウクライナ軍事侵攻等による原油高、半導体不足、小麦不足等によって、海外調達遅延、仕入価格上昇、物流経費増加によって、変動費が上昇し、収益悪化が表れている。現時点では、材料等仕入れ価格の上昇、電気料と物流経費増加分を販売価格に一部転嫁実現できた企業もあるが、依然中小企業の大半が転嫁することが、厳しい状況。（売上先により格差がある）物価高等の変動費上昇分を売上転嫁できるか否か、特に中小企業の事業継続の鍵を握るものと思慮。
	リ サ イ ク ル	<p>【新聞古紙】 韓国最大の新聞古紙需要家が、購入を再開。価格対応を始めたこと、円安進行、以上2つの要因により、円建て店頭単価が急激に上がっている。ただ、背景としてはインド向けの新聞用紙受注により、強気な購買姿勢を見せており、一時的な値上がりだと思われる。</p> <p>【雑誌古紙】 マレーシア、インドネシアからの需要が底堅い中で、輸出玉の減少により、日本雑誌古紙の調達難が広がっている。そのため、各社価格対応を始め、数量確保を図ろうとしている。円安進行、海上運賃下落、以上3つの要因により、円建て店頭単価が上昇傾向である。</p> <p>【段古紙】 アメリカ段古紙の東南アジア向け輸出単価が急落し、安いオファーがベトナム、タイメーカーに流れている。背景として、あるメーカーがタイ古紙パルプ工場での生産用に購入している米国古紙について、サプライヤーへの支払いを大規模に遅延している為、サプライヤー各社が工場未着貨物の転売に急遽踏み切ったことが主要原因として考えられる。欧米古紙の断続的な値下がりから、日本品に対しても値下げ圧力強く、ドル建て売価は下落している。ただ、想像以上に円安が進み、ドル価下落分をカバーし、店頭価格は横ばいから若干の下落にとどまっている。</p> <p>【シュレッダー】 ベトナムメーカーの単価対応なしによる輸出玉の減少により、ここ数か月下落した単価が反発。雑誌、新聞と同様の理由で、円建て店頭単価が上昇傾向。</p>
	機 械 器 具	後継者難や業績不振による廃業と正会員の減少が毎期、継続しており、組合行事出席者も減る傾向にある。会員減少による運営費の見直しで今期より値上げに踏み切るなど組合維持、継続も厳しさを増してきている。会員としてのメリットや魅力を打ち出す事が急務と感じている。
	リ サ イ ク ル	古紙市況は、国内の紙製品生産量の減少が続いており、需要は縮小している。供給面においても、古紙発生量の減少により問屋在庫も前年同期を大きく下回ってきている。輸出に関しては、アジア向けが円安ドル高為替の影響で、夏場に落ち込んでいた数量の回復が見込まれてきた。鉄スクラップ市況は、10月は為替相場の円安ドル高、海外の鉄原材料価格の上昇などから国内外ともに上昇ムードとなっている。海外は東南アジア向けの輸出が回復傾向にあり、中国からの安値での輸出が落ち着いてきた模様である。アルミ市況は円安の影響により、上昇ムードもあるが、慢性的な市中発生量の減少により、慎重な姿勢も散見されている。
小売業	菓 子	材料高で困る。
	酒 販	商品券の販売については、前年同月より大幅減だが、前年同月はビールの酒税率変更に伴う家庭用缶ビールの値下げ及びメーカーでの業務用ビールの値上げによる新券発行があった為、平常年より出荷が非常に多かった。使用済商品券の回収は前月に引き続き前年より2割程度ダウンしているが、累計では前年を超えている。収益状況は商品券の販売数が前年より大きく減少した為悪化しているが、計画通りであり年度の収益は計画通りとなる予定である。
	電 化 製 品	2024年、上半期家電商品国内出荷実績において、エアコンは前年比109%と好調だったが、冷蔵庫、洗濯機はいずれも前年比94%程の水準で前半を終了した。当組合において廃業による脱会が5会員あり、いずれも店主高齢による後継者不在であった。明るい話題では横浜市が主催するエコ家電買替促進「エコハマ+」が好評でエアコン、冷蔵庫、LED照明の省エネ基準品が販売され単価アップに繋がった。
	食 肉	10月12日、13日、第39回ちくさんフードフェアが日本食肉流通センターで開催され、低迷している和牛の試食を行い、約11万人が訪れた。
	青 果	10月被害にあったのは、トマトとネギであった。トマトは猛暑の為、木が弱って生育が悪かった上に、残暑が必要をあり、価格の高騰につながり、ネギは高温障害の為と豪雨の為に品物の質が落ち高値につながった。又、月末にはキャベツが高騰したりと、月替わり、旬替わりで高値の品物が発生し、小売には辛い日々が続いている。
	青 果	10月の天候も上旬、中旬は夏日が続く、野菜果物共に依然として猛暑の影響が残り、病気、虫害、高温障害のため、品質低下、出荷量減となり、引き続き高値続きとなった。小売販売には、ますます厳しい状況であった。総体的には、取引量は前年比106%、取引高は前年比102%であった。
	燃 料	4週連続していた原油コストの上昇が一服し、24日以降出荷分の大手元売り3社の石油製品仕切り価格は、いずれも前週比3円/Lの下落になった。為替レートの円安ドル高傾向は続いたが、原油価格の下落が大きかった状況である。また、燃料油価格激変緩和措置の補助額も、油価下落を受けて15円80銭と元売り仕切りよりやや小さく、実質仕切りは20銭の下落であった。下落は3週連続でこの間の累計は90銭という状況である。10月23日公表の神奈川県レギュラーガソリンの平均価格は172.7円/Lという状況であり、全国で平均では、174.9円となっている状況である。
	共 同 店 舗	1階の空店舗は退去後の新規入店が難しい。現状では道路側でない入居申込みが無く、対応策を考える必要がある。コロナが5類になった現状でも、申し込みは飲食が多いが、においや、火を使うので入店には至らない。
	タ イ ヤ 販 売	残暑が続き、対前年比で販売本数は横ばいといったところ。冬季のスタッドレスタイヤ販売に向けて、気候が涼しくならないと早期受注が期待できない。神奈川県中小企業生産性向上促進事業費補助金を組合全体でサポートできるよう、すすめている。中央会の支援のおかげで当組合としては2事業所で合計420万円近くの補助金申請が通った。今後も県や市の補助金など組合員にとって有用なものを組合全体でサポートできるよう体制を整えていくつもりである。

情報連絡一覧票（10月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非製造業	藤 沢 市	10月に入っても季節外れの暑さが続き、衣替えが進まない衣料や生育不良が目立つ野菜を扱う生鮮店舗は苦しい運営を余儀なくされている。また、同じ建物内の大型店のセルフレジやキャッシュレス化が進み、キャッシュレス決済による手数料負担を嫌い現金取引のみの一部店舗は顧客ニーズを掴めず、売上状況は悪化している。最低賃金の大幅な引き上げで、アルバイト主体の運営をしている飲食店舗、生鮮加工食品店舗の収益状況は相対的に芳しくない。大幅な売り上げアップしか、収益改善の糸口がなく、路頭に迷うオーナーも少なくない。
	川 崎 市	今月は商店街で一番大きなイベント、9月から引き続きの「スタンプラリー」・「第18回フライマルクト」・「モトスミハロウィン」と大きなイベントがあり、たくさんの人出で売上にも貢献しているようだが、物価高の影響で飲食店関係は買い控えが続いているようだ。
	横 須 賀 市	10月期はよこすか開国祭花火大会・ハロウィンフェスティバル・神輿パレード等のイベントによる週末の賑わいと近隣大型店のアニバーサリーもあり多くの来街者で賑わった。11月1日～3月16日迄は恒例のイルミネーション装飾を実施して夜の賑わいを取り戻したい。11月25日～1月31日迄は近隣6商店街が連携した「横須賀中央プレミアム商品券」を発売し、物価高による消費の低迷を刺激してクリスマス・年末年始の商いを下支えしたい。
	横 浜 市	価格競争で原価、人件費アップをなかなか販売価格に転嫁できない。一部に値下げ合戦があり、アップするとお客様が減る恐怖感があり値上げが苦しいのが現状である。また人も集まらないので給料も上がっている。
	相 模 原 市	仕入価格が上がった話、値上げする事になった話などをよく耳にする様になった。
サービス業	温泉旅館・ホテル	10月は天候に恵まれ、平日は外国人客、金土日は国内個人客と高稼働を維持できた月であった。外国人客比率が例年よりも高く、高単価で集客が出来た。
	建 物	人手不足に合わせ賃金の高騰が深刻。依頼される業務も断る結果となっている。
	建 設 設 計	建築業界では、相変わらず建築資材の高騰が続いている。下がる要素が見当たらない。横浜市では、公共工事は継続して発注されているが、設備工事を請け負う業者が少なく（職人の数が少なく現場に充てられない。）不調の物件が増加している。今後、建築全般に及ぶことが想定される。その他、小規模な改修計画は随時、公表されている。
	ファイナンシャルプランナー	当組合では、今年度にはいり、他団体との連携をする方向での協議に入ることが多くなった。種々の力を合わせて、組合の事業展開を進めていきたい。
	情 報 サ ー ビ ス 業	衆院選で与党が過半数割れし、少数与党での政権運営やアメリカ大統領選挙でのトランプ大統領の返り咲きにより、国内産業・IT企業への影響が懸念される。
柔 道 整 復 師	今年7月の神奈川県内柔道整復師療養費請求状況は、対前年同月比の95.9%であった。やはり、自費診療に移行してゆく人があとを絶たない。組合員の平均年齢が高いためもあって閉院、廃業をする方もふえていることは確かだが、現役世代の40代が保険取扱いを断念し、自由診療に切り替える者がでてきており、昔ながらの「ほねつぎ」は国に認められた伝統医療として代替医療を行ってきたが、その技術を継承できなくなりつつある。運動会の時期には、子供たちが大勢おしよせ、転んでけがしたただの、どこかにぶつけていたためただのと施術をまっている光景がなくなってきている。また、高齢者があちこち痛めてひどくならないようにと施術をしてゆき、少しずつ回復していくことも制度的に継続が難しい時代になってきている。身近な医療や介護に関する相談も引き受け、適切どころへ紹介もする仲間も大勢いる反面、笑顔とマッサージしかできない新参もの大手接骨院、整骨院が闊歩している時代をみるにつけ、やりきれない感情をもつのは、古参柔道整復師だけとなってきた気がする。規制緩和というが、規制すべきところを緩和し、緩和すべきところを規制しているようにしか思えない。柔道整復師療養費総請求額は年々減少してきている。国民の自由に医療を受ける権利を取り戻しつつ規制緩和するためには、現在規制されている医療機関との併診、対診を認めるべき時期にきている。	

情報連絡一覧票（10月分）



























集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
建設業	管 工 事	年度後半に入り、公共事業を中心に新たな受注機会が増えたものの、民間の発注件数は減少しているため、全体を通して売り上げは減少気味か。管工機材の売り上げはまずまずであるが、ビニール管などの値上げもあり、先月同様に粗利では減少していると感じているところも多いのではないかと。引き続き、経営状態への影響を注視していきたい。
	電 気 工 事	人材不足。
	板 金 工 事 業	売上等は、天候の影響もあり減少となっている。
	空 調 設 備 工 事	今は、少しずつ仕事が出てきている。今後、多くなると思われる。未だに材料値上げ、現場の遅れが問題。そのために利益が上がらない状態が続いている。
	畳 工 事	畳替えキャンペーン（10月10日～12月19日）も始まり、年末仕事増に期待。10月20日畳表展示会を相模原市産業会館において開催し売り上げが伸びた。10月後半から一般のお客様の仕事が増えてきた。このまま年末まで、続けば。12月1日には、小・中学生を対象に職業能力開発協会主催のものづくり教室に参加。かど松を製作する。
	建 具	非常に厳しい状況である。まず、仕事量が減った。まとまった仕事の現場が無い。建具1本、2本といった細かい仕事現場ばかりだ。当然、売り上げも減る。その上、材料費や人件費の高騰は、経営に響いている。
運輸業	道 路 貨 物	10月に入って全体的な荷量は増えており、災害が多かったせいか建材関係を主に中・長距離輸送も増えている。2024年問題を受けて、スポット輸送については荷役に時間の掛からないパレット輸送を希望する事業者が多くなり、手摘み手卸しとなるばら積み貨物については、拒否する事業者も多くなってきており、スポット運賃については上昇傾向である。長距離については、首都圏から地方向けの輸送が増え、地方から首都圏向けの輸送が減り、往復のバランスが崩れている状況は変わらないが、短距離については飲料関係の輸送が堅調であったが運賃については低調である。
	道 路 貨 物	輸送量 前年同月比 地場（近距離）輸送+2.0% 長距離輸送 + 1.0% 海上コンテナ輸送+20.0% 重量品輸送 +10.0% 各輸送量は、増加傾向にあるものの、依然として燃料の高止まりやその他の運行費用の値上りにより厳しい経営状況が続いている。また、適正な運賃を収受できない場合は、その依頼を断っている会社が散見される。
その他の非製造業	放課後等デイサービス	前年度に比べ大幅に感染症が減少した事により、放課後等デイサービスを利用する児童の欠席数が大きく減少したことにより売上高が上昇した。また、関東における台風の影響も最小限に抑えられた事も要因。前年度は、感染症が流行したことにより学校・学級閉鎖の影響が大きく売上減少となっていた。売上増により設備投資が増え、新規施設が増えた。一方、今年4月の報酬改定により減収となっている事業所もあり、専門的療育を行っている事業所とそうでない事業所との2極化が鮮明になっている。人材採用は、大変厳しい状況が続いているので、人材育成に力を入れて取り組んでいく必要がある。同時にデジタル化を推進する事で、生産性を上げて人材不足を補う経営戦略を実施しなければならない。新分野として事業協同組合等算定特例の申請をハローワークに提出（11月1日）。障害者雇用促進事業を行う。
	賃 屋	10月も、貸付金利息、買取品売り上げともに前年度より上がっている。ただ、コロナウイルス感染終了以降増加傾向にあった貸付に関して、前年度より下がっているの、これが10月単月だけの結果か、今後減少傾向に転じるか、注視してゆく。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
サービス業	建 物 サ ー ビ ス 業	清掃業務の予算、積算に労務単価（国交省）が反映されていない。
	柔道整復師	柔道整復師の医療機関との併診、対診察を認めてほしい。
卸売業	卸 団 地	物流費・光熱費等の仕入コスト上昇に対する支援を引続き、継続的に長期的かつ幅広く対応願いたい。インボイス制度導入（国税庁）、電子帳簿保存法改正対応（国税庁）、道路交通法改正による全業種運転者のアルコールチェック義務化（警察庁）等行政による生産性の乏しい事業者管理業務のみを強化している感が否めない。それによる事業者コストをよく考え、必要以上の締め付けに対しては、緩和もしくは見合わせ（法改正を含む）の柔軟性を求めたい。例）インボイス→軽減税率の廃止・消費税統一、アルコールチェック→業種制限を設定、電子帳簿保存→紙保存・データ保存の選択制も可とする。等 共同施設の修繕補助金、組合団地内インフラ整備補助金等、補助金利用を幅広く柔軟に組合が利用できるようにしてほしい。（受付期間を1～2週間ではなく、1か月等と幅広く願いたい）
小売業	共 同 店 舗	景気が良くなる様に行政に働きかけてほしい。いいのは全都で茅ヶ崎はまだまだ！
運輸業	タ ク シ ー	タクシーの京浜交通圏（川崎、横浜、三浦地区）は現在「準特定地区」に指定され、タクシーの台数は供給過剰であると行政から判断されています。一方でタクシー不足があり日本版ライドシェアが旅客輸送を行っています。これは大変矛盾しており、タクシードライバーの生活が脅かされています。改善を望みます。
	道路貨物	燃料補助金の継続か、トリガー条項解除。電気料金の再エネ賦課金の廃止。
その他の非製造業	放課後等デイサービス	感染症の流行により学級閉鎖になった時に代替支援による福祉サービスの利用が出来るようお願いしたい。（コロナが5類に移行する前は、代替支援が可能であった）事業協同組合等算定特例が認可された場合、中小企業を対象にした、障害者雇用セミナーを中央会主催で開催のお願いです。

景況天気図(前年比)

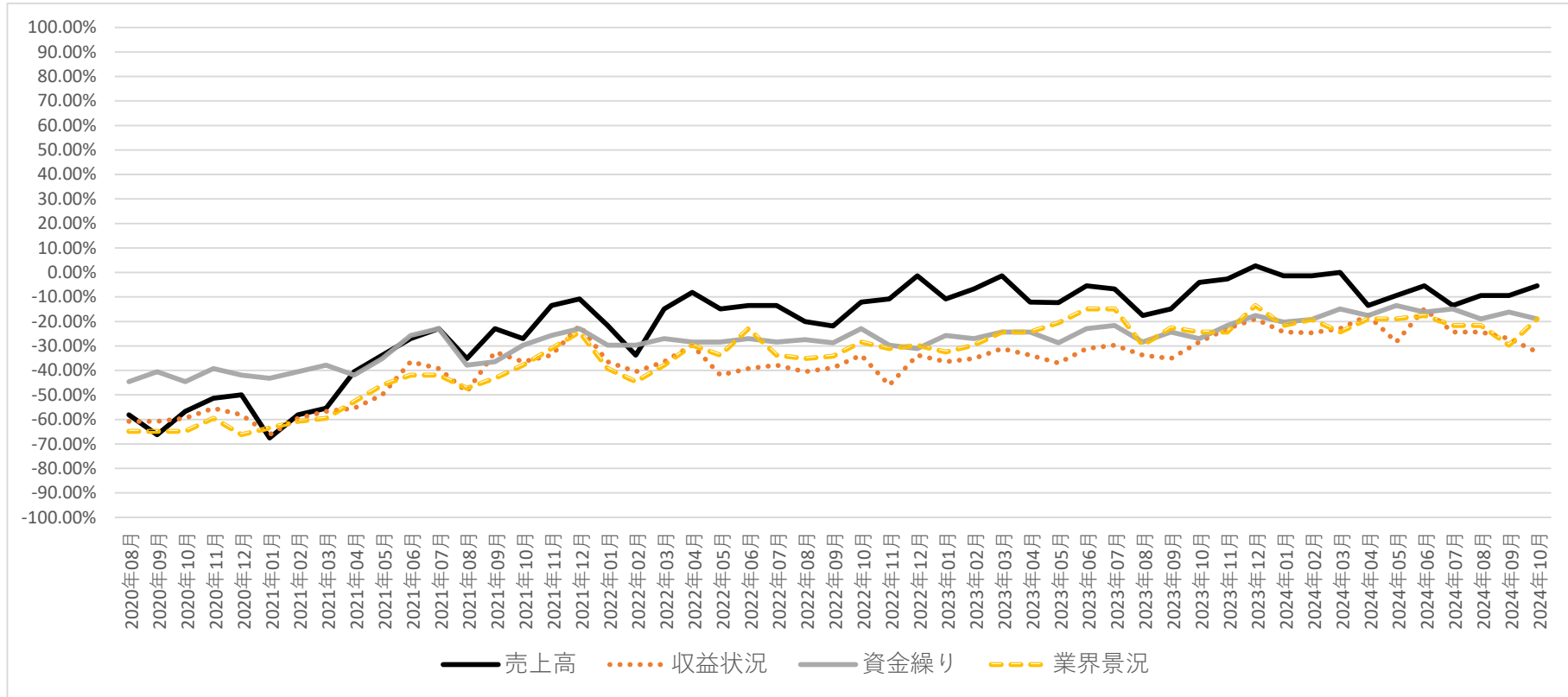
(2024年10月)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
全体	-5.4 %	6.5 %	21.6 %	-4.1 %	-32.4 %	-18.9 %	0.0 %	-14.9 %	-18.9 %
									
製造業	-9.5 %	14.3 %	23.8 %	-4.8 %	-28.6 %	-23.8 %	0.0 %	-9.5 %	-9.5 %
									
非製造業	-3.8 %	0.0 %	20.8 %	-3.8 %	-34.0 %	-17.0 %	%	-17.0 %	-22.6 %
							-		

天気図の見方・・・・・・各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を引いた値（KJI）をもとに作成。その基準は次の通りである。ただし、在庫数量はKJI値プラスの時には雨、マイナスの場合には晴れの方向に著した。KJIとは、「神奈川県情報連絡員調査指数」の略である。

快晴	晴れ	くもり	雨	雪
				
30以上	10~30未満	10未満~△10	△10未満~△30未満	△30以上

中小企業団体景況グラフ(全業種の主要項目)



本調査は、神奈川県中央会が委嘱した情報連絡員の役職員74名による調査結果です。調査対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員「全業種」の景況（前年度同月比）です。

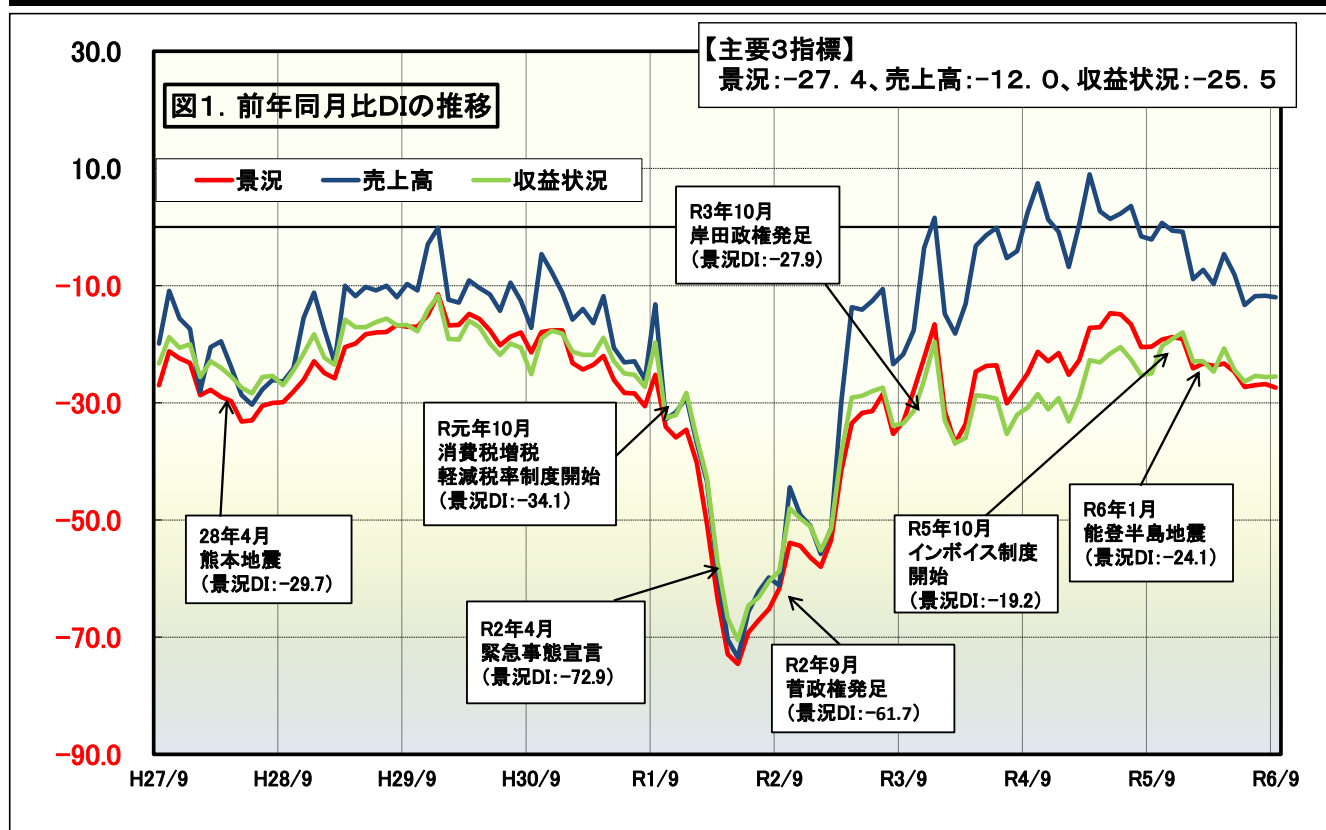
9月の中小企業月次景況調査

〔令和6年9月末現在〕

 全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

令和6年10月25日発表

- ◎9月のDIは製造業で一部改善したものの、非製造業では低下。
- お盆や夏休み期間中の人流増加からの反動により、非製造業を中心に景況感が低下した一方で、設備操業度が改善した製造業では上昇。
 - 引き続き、人手不足・人材確保の問題が、多くの業種で収益力の足かせとなっている。
 - また、建設業・運輸業の時間外労働の上限規制の適用に対する事業への影響を懸念する声も多く寄せられている。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役職員約2,500名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)
全国中小企業団体中央会
担当: 政策推進部
TEL 03-3523-4902
<https://www.chuokai.or.jp>

9月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 9月のD Iは、製造業で一部改善したものの、非製造業では前月比低下。主要3指標は、景況が0.6ポイント低下、売上高が0.3ポイント低下、収益状況は0.1ポイント上昇した。
2. 主要3指標以外では、設備操業度のD Iが4.4ポイント上昇した。
3. お盆や夏休み期間中の人流増加からの反動により、非製造業を中心に景況感が低下した一方で、設備操業度が改善した製造業では上昇。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

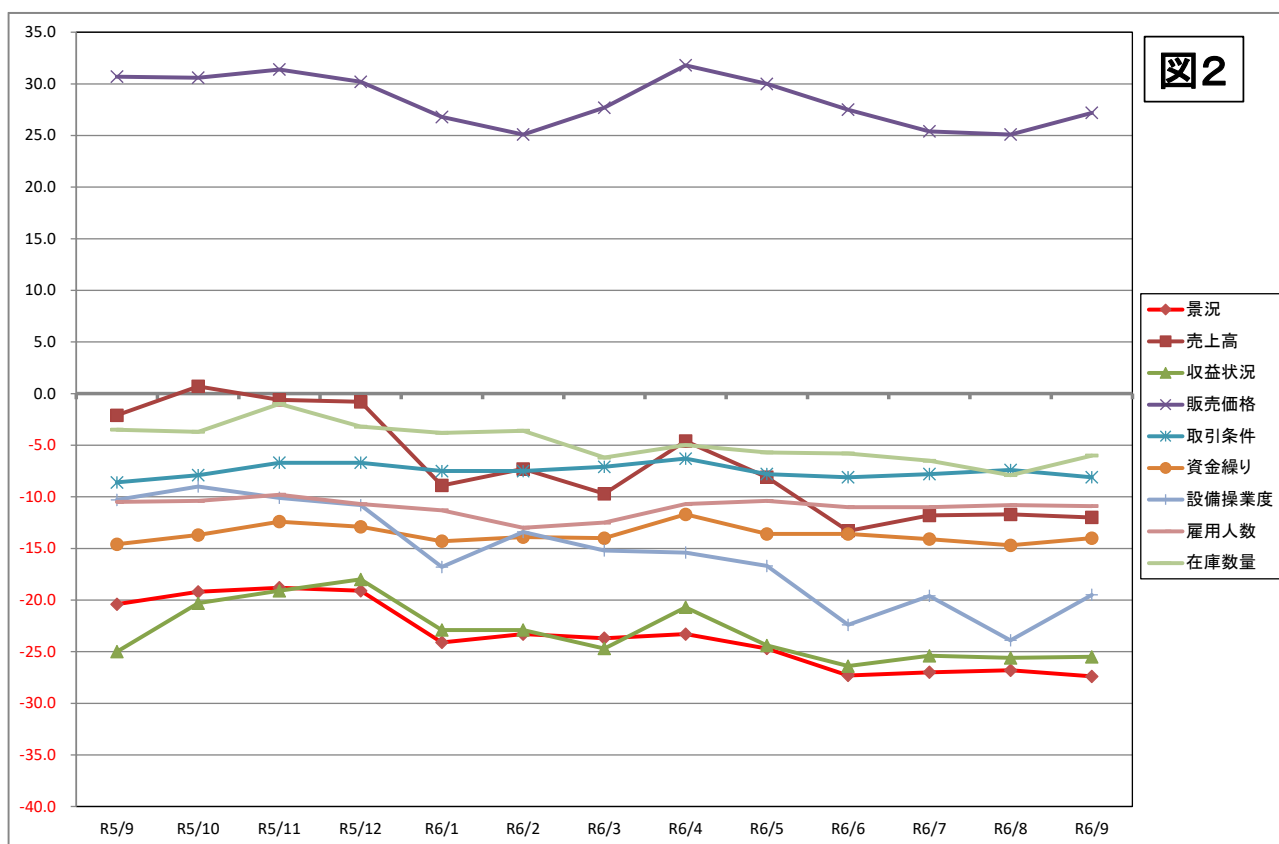


表1	R5				R6									前月比
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
景況	-20.4	-19.2	-18.8	-19.1	-24.1	-23.3	-23.7	-23.3	-24.7	-27.3	-27.0	-26.8	-27.4	-0.6
売上高	-2.1	0.7	-0.6	-0.8	-8.9	-7.3	-9.7	-4.6	-8.1	-13.3	-11.8	-11.7	-12.0	-0.3
収益状況	-25.0	-20.3	-19.1	-18.0	-22.9	-22.9	-24.7	-20.7	-24.4	-26.4	-25.4	-25.6	-25.5	0.1
販売価格	30.7	30.6	31.4	30.2	26.8	25.1	27.7	31.8	30.0	27.5	25.4	25.1	27.2	2.1
取引条件	-8.6	-7.9	-6.7	-6.7	-7.5	-7.5	-7.1	-6.3	-7.8	-8.1	-7.8	-7.4	-8.1	-0.7
資金繰り	-14.6	-13.7	-12.4	-12.9	-14.3	-13.9	-14.0	-11.7	-13.6	-13.6	-14.1	-14.7	-14.0	0.7
設備操業度	-10.3	-9.0	-10.1	-10.8	-16.8	-13.4	-15.2	-15.4	-16.7	-22.4	-19.6	-23.9	-19.5	4.4
雇用人員	-10.5	-10.4	-9.8	-10.7	-11.3	-13.0	-12.5	-10.7	-10.4	-11.0	-11.0	-10.8	-10.9	-0.1
在庫数量	-3.5	-3.7	-1.0	-3.2	-3.8	-3.6	-6.2	-5.0	-5.7	-5.8	-6.5	-7.9	-6.0	1.9

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 原材料価格、エネルギー価格の高騰に加え、人件費の上昇による収益悪化に苦慮しているコメントが、引き続き多数寄せられた。
2. 人手不足・人材確保の問題についても、依然として全ての業種から報告されている。
3. また、建設業・運輸業の時間外労働の上限規制の適用に対する事業への影響を懸念する声も多く寄せられている。

《主な報告内容》

◇原材料価格、エネルギー価格高騰、人件費上昇に対する価格転嫁への対応等

- ・原材料費など諸経費の価格転嫁が進んでいない。パートナーシップ構築宣言を公表している企業とも、価格改正は出来ていない状況。（東京都/印刷業）
- ・労務単価や材料費の高騰にゼネコンの理解が薄れてきているように感じる。人員が不足している地方と、豊富な都市部では労務単価の考え方が異なるべきであるし、使用する材料費も同じであるはずだが、地方は安価であるべきだという考えが根強く残っている。そのため、値上に対する反応が鈍くなっている。（新潟県/左官工事業）
- ・前年同月に比べ、さらに物価は高騰。光熱費・仕入価格・人件費等、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。そもそも物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。（高知県/飲食業）

◇人手不足、人材確保の問題に対する経営への影響

- ・季節限定のパート・アルバイトを募集しているが、昨年よりも集まりが非常に悪い。フリーマガジンを見て応募する人はほとんどおらず、ハローワークからの連絡もない。現在主流のインターネットからの応募も少なく、このような状況が今後も続けば、来年以降、工場の稼働が厳しくなる。（宮城県/水産練製品製造業）
- ・人材不足と少子高齢化が加速しているが、ニット業界の生産現場でも外国人の在留資格「特定技能」に目を向ける組合員が増えてきた。すでに技能実習から在留資格を移行するための準備を進めている組合員から相談を受けている。今後、育成就労制度が施行されるが、基本的な情報提供はあっても具体的な内容をつかめないのが現状である。（岐阜県/繊維工業）
- ・働き方改革による労働時間上限規制、人手不足が深刻化する中で、生産性向上や効率化を図るためのICT導入は理解しているが、導入費用及びIT人材が不在のため導入は難しい。（長崎県/建設業）

◇建設業・運輸業の時間外労働の上限規制に対する事業への影響

- ・時間外労働規制が4月から始まり、残業規制によって働く時間が大幅に減少している実態があり、依然として日給月給制が多い建設労働者の収入の減少が懸念されている。人材獲得競争が激化する中で、現状の処遇環境では建設業離れが顕著となるのではとの大きな危機感が抱かれている。（宮城県/建設業）
- ・荷物量は少ないが、輸送条件の選別が厳しくなっている。「待機時間が長い」「荷役作業が多い」「手積み手降ろし」といった輸送条件の場合、トラック確保が困難になっている。逆に簡易作業の輸送は、運賃競争が発生している。結果、運行の確保困難、乗務員賃金の確保困難から、事業継続が厳しいとの声も聞く状態にある。（岐阜県/貨物運送事業）
- ・建設業界も材料価格高騰、物流費高騰、職人工賃高騰の状況化にありながら、働き方改革で休みや残業に規制が掛かり始めている。まずは元請けが工期の延長や工賃アップ、保証を率先してやらなければ下請けは苦しくなるばかりである。（福岡県/床・内装工事業）

※ 後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告（要旨）」等も参照。

1. 景況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 26.8	▲ 27.4	▲ 0.6	悪化	↘
製造業	▲ 37.6	▲ 35.9	1.7	上昇	↗
非製造業	▲ 18.6	▲ 20.9	▲ 2.3	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	電気機器			
	5～10ポイント	木材・木製品、印刷、化学・ゴム、鉄鋼・金属、一般機器、その他の非製造業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	紙・紙加工品			
	5～10ポイント	食料品			

表2. 業種別【景況】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	前月比
全体	-20.4	-19.2	-18.8	0.4	-24.1	-23.3	-23.7	-23.3	-24.7	-27.3	-27.0	-26.8	-27.4	-0.6
製造業	-27.6	-26.6	-25.9	-25.9	-29.6	-30.4	-32.0	-33.7	-32.4	-35.2	-35.7	-37.6	-35.9	1.7
食料品	-18.7	-16.5	-20.2	-20.2	-19.4	-17.1	-16.6	-13.4	-19.3	-21.6	-27.2	-22.3	-27.5	-5.2
繊維工業	-24.8	-29.2	-26.7	-26.7	-34.5	-33.6	-30.6	-39.1	-41.4	-41.8	-43.2	-45.9	-49.0	-3.1
木材・木製品	-52.7	-51.3	-50.5	-50.5	-55.1	-50.9	-48.2	-53.6	-45.1	-49.5	-45.6	-54.9	-48.7	6.2
紙・紙加工品	-54.1	-45.9	-36.0	-36.0	-24.0	-41.6	-54.1	-32.0	-36.0	-48.0	-28.0	-44.0	-54.1	-10.1
印刷	-41.0	-35.7	-29.8	-29.8	-43.8	-37.9	-31.6	-50.0	-39.3	-36.2	-47.3	-53.5	-47.4	6.1
化学・ゴム	-32.2	-21.5	-21.5	-21.5	-21.4	-27.6	-27.6	-21.2	-32.1	-34.6	-25.0	-28.6	-21.5	7.1
窯業・土石製品	-38.0	-34.0	-31.3	-31.3	-34.1	-35.6	-39.7	-32.0	-35.6	-41.3	-41.9	-39.1	-35.8	3.3
鉄鋼・金属	-23.3	-21.0	-23.0	-29.7	-29.8	-38.1	-41.7	-50.0	-38.6	-39.8	-40.9	-44.2	-38.2	6.0
一般機器	-14.7	-17.0	-12.6	-15.9	-19.6	-18.0	-26.7	-25.3	-24.7	-37.8	-35.3	-38.5	-33.3	5.2
電気機器	-21.4	-28.6	-21.4	-20.7	-17.8	-29.6	-32.2	-44.9	-35.7	-17.9	-10.7	-17.8	-3.7	14.1
輸送機器	4.6	2.2	-2.4	4.5	0.0	-9.1	-16.3	-9.6	-6.7	-8.9	-15.5	-15.9	-16.3	-0.4
その他の製造業	-26.0	-26.0	-27.4	-12.5	-34.0	-28.0	-30.0	-38.0	-38.8	-34.0	-28.6	-29.7	-30.6	-0.9
非製造業	-15.0	-13.6	-13.4	-14.7	-20.0	-18.1	-17.6	-15.4	-18.7	-21.3	-20.3	-18.6	-20.9	-2.3
卸売業	-13.0	-12.7	-15.0	-19.1	-22.4	-17.2	-15.5	-14.5	-18.2	-22.3	-22.8	-22.8	-22.2	0.6
小売業	-23.7	-24.2	-24.0	-20.5	-30.8	-26.0	-27.5	-27.9	-30.7	-32.2	-28.9	-25.2	-29.3	-4.1
商店街	-21.8	-14.0	-16.4	-13.5	-15.4	-19.3	-18.7	-17.7	-17.4	-21.9	-23.3	-24.7	-28.4	-3.7
サービス業	2.8	2.9	4.4	-2.5	-6.8	-2.5	-0.3	5.0	2.2	-4.0	-6.0	-2.9	-5.8	-2.9
建設業	-15.0	-15.8	-14.1	-19.1	-18.9	-23.4	-22.7	-19.4	-22.9	-24.3	-20.4	-19.7	-20.1	-0.4
運輸業	-26.2	-20.6	-17.3	-14.7	-27.7	-23.8	-24.3	-22.6	-29.1	-27.7	-25.0	-23.4	-27.9	-4.5
その他の非製造業	-23.3	-10.4	-17.3	-10.0	-10.0	-13.3	-10.3	-6.6	-13.4	-6.7	-9.7	-6.4	3.3	9.7

Pick up!

「紙・紙加工品」：物価高騰の影響で荷動きが悪かったことから、景況DIは▲54.1と、前月比10.1ポイント低下。

「運輸業」：需要の低迷から荷動きが悪く、輸送コストも上昇していることから、景況DIは▲27.9と、前月比4.5ポイント低下。

2. 売上高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 11.7	▲ 12.0	▲ 0.3	悪化	↘
製造業	▲ 24.2	▲ 21.8	2.4	上昇	↗
非製造業	▲ 2.3	▲ 4.6	▲ 2.3	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	電気機器			
	5～10ポイント	木材・木製品、鉄鋼・金属、サービス業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	卸売業、その他の非製造業			
	5～10ポイント	食料品、小売業			

表3. 業種別【売上高】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	前月比
全体	-2.1	0.7	-0.6	-0.8	-8.9	-7.3	-9.7	-4.6	-8.1	-13.3	-11.8	-11.7	-12.0	-0.3
製造業	-9.2	-1.8	-5.9	-6.5	-13.7	-13.7	-18.4	-14.6	-15.5	-23.6	-19.2	-24.2	-21.8	2.4
食料品	12.7	15.4	14.5	21.0	4.6	12.1	12.6	8.3	8.1	-3.6	-3.7	-4.6	-12.5	-7.9
繊維工業	-7.0	-0.9	-2.7	-11.4	-15.0	-13.6	-14.4	-13.6	-24.3	-22.7	-26.6	-26.1	-26.8	-0.7
木材・木製品	-38.4	-28.3	-33.3	-38.4	-39.4	-39.3	-34.8	-39.3	-40.7	-39.7	-21.9	-41.6	-31.8	9.8
紙・紙加工品	-41.6	-4.2	-12.0	16.0	-12.0	-25.0	-37.5	8.0	-24.0	-8.0	-8.0	-16.0	-20.9	-4.9
印刷	7.2	-5.4	-10.5	5.2	-15.8	-10.3	-28.0	-30.4	-14.2	-27.6	-29.8	-32.8	-32.2	0.6
化学・ゴム	3.6	3.5	17.9	0.0	-3.6	-24.2	-17.3	-3.0	0.0	-11.5	-25.0	-21.4	-25.0	-3.6
窯業・土石製品	-29.4	-17.1	-22.9	-13.0	-23.0	-25.0	-33.6	-8.6	-16.3	-32.7	-24.5	-35.3	-30.7	4.6
鉄鋼・金属	-15.0	-5.2	-10.0	-19.3	-15.0	-24.7	-44.7	-40.9	-23.5	-29.4	-28.1	-35.1	-25.2	9.9
一般機器	0.0	8.0	0.0	-4.9	-10.8	-13.0	-16.9	-15.1	-15.9	-30.0	-18.6	-22.1	-18.6	3.5
電気機器	-25.0	-25.0	-32.1	-38.0	-35.7	-14.8	-14.3	-24.2	-39.3	-39.3	-10.7	-17.9	18.5	36.4
輸送機器	13.6	28.8	19.1	-4.6	0.0	-6.8	4.7	11.9	-2.2	-2.2	-6.7	-13.6	-13.9	-0.3
その他の製造業	-14.0	-2.0	-3.9	-10.4	-18.0	-10.0	-24.0	-24.0	-26.5	-38.0	-30.6	-21.2	-24.5	-3.3
非製造業	3.1	2.7	3.6	3.4	-5.4	-2.6	-3.1	2.9	-2.4	-5.4	-6.1	-2.3	-4.6	-2.3
卸売業	9.4	8.3	13.5	7.8	-1.4	7.4	1.0	9.0	-0.5	-11.4	-4.1	6.0	-10.9	-16.9
小売業	-1.6	-6.5	-3.1	-4.4	-18.9	-12.3	-10.9	-7.1	-9.6	-10.4	-17.8	-6.9	-12.4	-5.5
商店街	4.0	3.9	5.7	12.2	-0.7	5.0	-5.6	8.2	-5.6	-5.0	-14.9	-12.7	-8.1	4.6
サービス業	16.2	19.5	18.3	14.3	11.1	13.7	11.8	16.5	13.0	5.4	8.9	6.5	13.9	7.4
建設業	-10.4	-9.9	-9.4	-8.5	-10.5	-18.8	-11.3	-10.5	-12.5	-10.9	-5.7	-6.4	-6.0	0.4
運輸業	-1.5	-2.3	-4.7	2.3	-10.8	-8.5	-3.1	3.9	-0.7	-2.3	-3.1	-7.0	-9.3	-2.3
その他の非製造業	10.0	17.3	0.0	3.3	0.0	-6.6	-3.4	13.3	10.0	13.3	-3.3	16.2	0.0	-16.2

Pick up!

「電気機器」：一部に需要の回復の動きが見られることや、価格転嫁が進展してきたことから、売上高DIは18.5と、前月比36.4ポイント上昇。

「卸売業」：猛暑や台風の影響により、農産物や水産物を中心に取扱量が減少したことから、売上高DIは▲10.9と、前月比16.9ポイント低下。

3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 25.6	▲ 25.5	0.1	上昇	↗
製造業	▲ 32.2	▲ 32.1	0.1	上昇	↗
非製造業	▲ 20.5	▲ 20.7	▲ 0.2	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	電気機器			
	5～10ポイント	木材・木製品、輸送機器、サービス業、その他の非製造業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	食料品、紙・紙加工品、化学・ゴム			
	5～10ポイント	卸売業、運輸業			

表4. 業種別【収益状況】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	前月比
全体	-25.0	-20.3	-19.1	-18.0	-22.9	-22.9	-24.7	-20.7	-24.4	-26.4	-25.4	-25.6	-25.5	0.1
製造業	-30.0	-23.4	-21.7	-21.7	-27.7	-28.9	-31.3	-29.3	-29.6	-31.5	-32.0	-32.2	-32.1	0.1
食料品	-23.7	-16.0	-15.0	-6.1	-15.3	-13.1	-16.2	-13.4	-13.7	-19.1	-24.1	-19.3	-30.0	-10.7
繊維工業	-29.2	-23.0	-22.3	-28.0	-36.3	-30.9	-33.3	-30.9	-33.3	-32.7	-38.5	-44.2	-41.7	2.5
木材・木製品	-51.8	-40.7	-39.6	-43.9	-49.6	-41.9	-41.0	-42.8	-43.4	-43.2	-42.1	-46.0	-36.3	9.7
紙・紙加工品	-29.2	-29.2	-32.0	-28.0	-20.0	-41.7	-25.0	-4.0	-20.0	-28.0	-16.0	-16.0	-29.1	-13.1
印刷	-48.2	-44.6	-35.1	-26.3	-38.6	-36.2	-35.1	-46.4	-39.3	-48.2	-43.8	-46.6	-44.1	2.5
化学・ゴム	-35.7	-14.3	-10.7	-21.4	-25.0	-27.6	-24.1	-30.3	-25.0	-23.1	-25.0	-25.0	-35.7	-10.7
窯業・土石製品	-32.5	-28.9	-19.9	-19.9	-32.6	-34.8	-35.1	-25.8	-34.1	-32.7	-36.6	-34.6	-31.4	3.2
鉄鋼・金属	-25.6	-22.5	-21.5	-26.7	-23.9	-38.0	-44.7	-40.9	-32.6	-33.8	-34.1	-32.1	-34.4	-2.3
一般機器	-18.7	-13.0	-16.5	-16.8	-20.6	-20.0	-30.6	-31.3	-28.8	-34.9	-32.4	-27.9	-24.5	3.4
電気機器	-32.2	-14.3	-21.5	-31.1	-25.0	-22.2	-25.0	-41.4	-39.3	-21.4	-3.5	-14.3	11.1	25.4
輸送機器	-9.1	-4.4	-11.9	-20.4	-21.0	-25.0	-30.3	-14.3	-24.4	-17.8	-15.6	-29.6	-23.3	6.3
その他の製造業	-30.0	-22.0	-17.7	-8.3	-20.0	-30.0	-28.0	-30.0	-30.6	-40.0	-34.7	-38.3	-36.7	1.6
非製造業	-21.2	-18.1	-17.1	-15.3	-19.3	-18.4	-19.8	-14.2	-20.5	-22.6	-20.5	-20.5	-20.7	-0.2
卸売業	-21.9	-16.1	-12.0	-14.3	-17.0	-13.3	-17.1	-15.5	-21.7	-23.3	-17.7	-19.3	-24.6	-5.3
小売業	-29.6	-27.7	-25.8	-20.8	-26.1	-28.5	-29.7	-27.3	-31.1	-32.5	-30.9	-28.6	-29.7	-1.1
商店街	-25.2	-19.1	-17.1	-14.8	-21.8	-18.1	-21.8	-14.5	-21.7	-21.2	-29.0	-26.6	-29.6	-3.0
サービス業	-5.7	-4.7	-5.1	-3.9	-7.9	-7.4	-6.9	2.8	-9.2	-13.0	-8.5	-11.9	-5.8	6.1
建設業	-22.5	-21.8	-22.1	-22.0	-23.2	-22.6	-23.6	-17.7	-22.1	-22.2	-22.6	-22.3	-18.9	3.4
運輸業	-29.3	-19.8	-19.6	-15.4	-23.1	-20.0	-19.6	-10.9	-16.0	-25.4	-13.3	-15.6	-22.5	-6.9
その他の非製造業	-13.3	-13.8	-17.3	-20.0	-10.0	-13.3	-13.8	-10.0	-3.3	0.0	-6.5	0.0	6.7	6.7

Pick up!

「サービス業」：インバウンドを中心に観光客が増加し、ホテル・旅館を中心に収益が改善したことから、収益状況DIは▲5.8と、前月比6.1ポイント上昇。

「食料品」：原材料や人件費といったコストが上昇したことから、収益状況DIは▲30.0と、前月比10.7ポイント低下。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 14.7	▲ 14.0	0.7	上昇	↗
製造業	▲ 17.6	▲ 18.2	▲ 0.6	悪化	↘
非製造業	▲ 12.3	▲ 10.9	1.4	上昇	↗
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向	
全体	25.1	27.2	2.1	上昇	↗
製造業	19.7	22.4	2.7	上昇	↗
非製造業	29.2	30.9	1.7	上昇	↗
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 7.4	▲ 8.1	▲ 0.7	悪化	↘
製造業	▲ 5.7	▲ 6.4	▲ 0.7	悪化	↘
非製造業	▲ 8.9	▲ 9.4	▲ 0.5	悪化	↘
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向	
製造業	▲ 23.9	▲ 19.5	4.4	上昇	↗
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 10.8	▲ 10.9	▲ 0.1	悪化	↘
製造業	▲ 11.0	▲ 12.3	▲ 1.3	悪化	↘
非製造業	▲ 10.5	▲ 9.7	0.8	上昇	↗
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 7.9	▲ 6.0	1.9	上昇	↗
製造業	▲ 7.1	▲ 3.7	3.4	上昇	↗
非製造業	▲ 9.2	▲ 9.4	▲ 0.2	悪化	↘

Calendar 2024

～～ 国内外の主なトピックス（令和6年10月）～～

10月1日(火)	9月の全国企業短期経済観測調査：日本銀行。業況判断指数で、大企業のサービス業の改善が目立った。宿泊・飲食サービス業がプラス52と過去最高に並んだ。賃上げやインバウンドの増加を支えに、国内消費が持ち直しの兆しをみせている。
10月7日(月)	8月の景気動向指数：内閣府。景気の現状を示す一致指数は前月比3.7ポイント下降の113.5となり、2カ月ぶりの下降となった。台風による影響で自動車の出荷が減少したほか、前月に大型案件があったレーダー装置で反動減があった。
10月8日(火)	8月の国際収支統計：財務省。経常収支の黒字額は、前年同月比65.8%増の3兆8036億円と拡大した。旅行収支はインバウンドの拡大で8月として比較可能な1996年以降で過去最大の黒字額となった。
10月8日(火)	9月の景気ウォッチャー調査：内閣府。現状判断指数は前月比1.2ポイント低下の47.8だった。低下は4カ月ぶりとなる。8月に防災用品の需要が高まった反動で、家計関連が振るわなかった。
10月9日(水)	2024年7～9月の工作機械受注総額：日本工作機械工業会。前年同月比1%減の3600億円だった。マイナスは2四半期にぶり。中国の需要回復で海外向けが伸びたが、設備投資に慎重な国内向けが低迷した。

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(令和6年9月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全 体	-27.4	-12.0	-25.5	27.2	-8.1	-14.0	-19.5	-10.9	-6.0
製 造 業	-35.9	-21.8	-32.1	22.4	-6.4	-18.2	-19.5	-12.3	-3.7
非 製 造 業	-20.9	-4.6	-20.7	30.9	-9.4	-10.9		-9.7	-9.4

(製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食 料 品	-27.5	-12.5	-30.0	33.1	-5.2	-17.6	-7.2	-9.8	-3.6
織 維 工 業	-49.0	-26.8	-41.7	12.0	-6.5	-22.2	-20.4	-13.9	-10.2
木 材・木 製 品	-48.7	-31.8	-36.3	-4.4	-13.3	-20.4	-19.5	-13.2	-2.7
紙・紙加工品	-54.1	-20.9	-29.1	50.0	0.0	-20.8	-50.0	-16.6	0.0
印 刷	-47.4	-32.2	-44.1	27.1	-3.4	-18.6	-35.6	-32.2	-10.2
化 学・ゴ ム	-21.5	-25.0	-35.7	35.7	-3.5	-14.3	-14.3	-3.6	-3.6
窯業・土石製品	-35.8	-30.7	-31.4	43.1	-2.1	-20.4	-26.2	-16.1	0.0
鉄 鋼・金 属	-38.2	-25.2	-34.4	18.4	-9.1	-21.4	-21.4	-8.4	-3.8
一 般 機 器	-33.3	-18.6	-24.5	20.6	-4.0	-17.6	-19.6	-7.9	3.9
電 気 機 器	-3.7	18.5	11.1	18.5	-11.1	7.4	-7.4	-11.1	-14.8
輸 送 機 器	-16.3	-13.9	-23.3	9.3	-4.6	-9.3	-16.3	-4.7	-4.7
その他の製造業	-30.6	-24.5	-36.7	8.2	-12.2	-16.4	-20.4	-10.2	-6.1

(非 製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸 売 業	-22.2	-10.9	-24.6	36.9	-11.4	-8.9		-4.4	-7.9
小 売 業	-29.3	-12.4	-29.7	33.9	-19.2	-16.3		-9.9	-14.1
商 店 街	-28.4	-8.1	-29.6	40.1	-14.1	-18.5		-9.2	-2.4
サ ー ビ ス 業	-5.8	13.9	-5.8	29.0	-1.1	-3.7		-9.1	
建 設 業	-20.1	-6.0	-18.9	21.4	-9.4	-7.7		-13.3	
運 輸 業	-27.9	-9.3	-22.5	22.5	0.8	-13.2		-17.1	
その他の非製造業	3.3	0.0	6.7	36.7	13.4	-6.6		6.7	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(令和6年 9月 末現在)

(単位:%)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全体	5.1	62.4	32.5	20.6	46.8	32.6	8.1	58.3	33.6	32.9	61.4	5.7	3.4	85.2	11.5	3.0	80.0	17.0	6.8	66.9	26.3	4.5	80.1	15.4	9.5	74.9	15.5
製造業	3.4	57.4	39.3	17.0	44.3	38.8	6.9	54.1	39.0	28.6	65.2	6.2	2.8	88.1	9.2	1.7	78.4	19.9	6.8	66.9	26.3	4.3	79.1	16.6	10.2	75.9	13.9
非製造業	6.5	66.1	27.4	23.3	48.8	27.9	8.9	61.4	29.6	36.2	58.5	5.3	3.8	83.0	13.2	3.9	81.2	14.8	0.0	0.0	0.0	4.7	80.9	14.4	8.6	73.5	18.0

(製造業)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食料品	3.1	66.3	30.6	20.7	46.1	33.2	7.3	55.4	37.3	34.7	63.7	1.6	3.1	88.6	8.3	2.1	78.2	19.7	7.8	77.2	15.0	5.7	78.8	15.5	11.4	73.6	15.0
繊維工業	1.9	47.2	50.9	13.0	47.2	39.8	4.6	49.1	46.3	19.4	73.1	7.4	4.6	84.3	11.1	0.0	77.8	22.2	4.6	70.4	25.0	4.6	76.9	18.5	8.3	73.1	18.5
木材・木製品	0.9	49.6	49.6	13.3	41.6	45.1	5.3	53.1	41.6	19.5	56.6	23.9	0.9	85.0	14.2	0.0	79.6	20.4	4.4	71.7	23.9	1.8	83.2	15.0	15.0	67.3	17.7
紙・紙加工品	4.2	37.5	58.3	20.8	37.5	41.7	16.7	37.5	45.8	50.0	50.0	0.0	8.3	83.3	8.3	4.2	70.8	25.0	8.3	33.3	58.3	4.2	75.0	20.8	12.5	75.0	12.5
印刷	3.4	45.8	50.8	10.2	47.5	42.4	5.1	45.8	49.2	32.2	62.7	5.1	6.8	83.1	10.2	3.4	74.6	22.0	6.8	50.8	42.4	0.0	67.8	32.2	5.1	79.7	15.3
化学・ゴム	7.1	64.3	28.6	14.3	46.4	39.3	3.6	57.1	39.3	35.7	64.3	0.0	3.6	89.3	7.1	0.0	85.7	14.3	10.7	64.3	25.0	10.7	75.0	14.3	14.3	67.9	17.9
窯業・土石製品	3.6	56.9	39.4	18.2	32.8	48.9	8.0	52.6	39.4	43.8	55.5	0.7	1.5	94.9	3.6	1.5	76.6	21.9	6.6	60.6	32.8	0.0	83.9	16.1	9.5	81.0	9.5
鉄鋼・金属	2.3	57.3	40.5	13.0	48.9	38.2	5.3	55.0	39.7	26.0	66.4	7.6	0.8	89.3	9.9	0.0	78.6	21.4	6.1	66.4	27.5	6.9	77.9	15.3	9.9	76.3	13.7
一般機器	0.0	66.7	33.3	16.7	48.0	35.3	6.9	61.8	31.4	24.5	71.6	3.9	2.9	90.2	6.9	2.0	78.4	19.6	4.9	70.6	24.5	3.9	84.3	11.8	10.8	82.4	6.9
電気機器	18.5	59.3	22.2	40.7	37.0	22.2	33.3	44.4	22.2	25.9	66.7	7.4	3.7	81.5	14.8	18.5	70.4	11.1	14.8	63.0	22.2	7.4	74.1	18.5	3.7	77.8	18.5
輸送機器	11.6	60.5	27.9	23.3	39.5	37.2	2.3	72.1	25.6	14.0	81.4	4.7	4.7	86.0	9.3	0.0	90.7	9.3	11.6	60.5	27.9	9.3	76.7	14.0	9.3	76.7	14.0
その他の製造業	4.1	61.2	34.7	10.2	55.1	34.7	4.1	55.1	40.8	14.3	79.6	6.1	0.0	87.8	12.2	2.0	79.6	18.4	8.2	63.3	28.6	6.1	77.6	16.3	6.1	81.6	12.2

(非製造業)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸売業	6.9	64.0	29.1	25.1	38.9	36.0	9.9	55.7	34.5	43.8	49.3	6.9	3.9	80.8	15.3	4.9	81.3	13.8				6.4	82.8	10.8	10.3	71.4	18.2
小売業	4.2	62.3	33.5	22.4	42.8	34.8	8.0	54.3	37.7	42.2	49.5	8.3	1.6	77.6	20.8	2.9	78.0	19.2				4.2	81.8	14.1	7.0	71.9	21.1
商店街	5.6	60.5	34.0	19.1	53.7	27.2	5.6	59.3	35.2	44.4	51.2	4.3	1.9	82.1	16.0	0.6	80.2	19.1				1.9	87.0	11.1	9.3	79.0	11.7
サービス業	12.1	70.0	17.9	31.5	50.9	17.6	13.2	67.8	19.0	31.9	65.2	2.9	5.9	87.2	7.0	6.6	83.2	10.3				5.9	79.1	15.0			
建設業	3.9	72.1	24.0	17.2	59.7	23.2	5.6	70.0	24.5	26.6	68.2	5.2	2.6	85.4	12.0	3.9	84.5	11.6				3.9	79.0	17.2			
運輸業	3.9	64.3	31.8	20.9	48.8	30.2	8.5	60.5	31.0	25.6	71.3	3.1	6.2	88.4	5.4	3.1	80.6	16.3				5.4	72.1	22.5			
その他の非製造業	13.3	76.7	10.0	26.7	46.7	26.7	20.0	66.7	13.3	36.7	63.3	0.0	16.7	80.0	3.3	6.7	80.0	13.3				6.7	93.3	0.0			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(令和 6年 9月 末現在)

〔全国〕

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	5.1	62.4	32.5	-27.4	20.6	46.8	32.6	-12.0	8.1	58.3	33.6	-25.5
製造業	3.4	57.4	39.3	-35.9	17.0	44.3	38.8	-21.8	6.9	54.1	39.0	-32.1
非製造業	6.5	66.1	27.4	-20.9	23.3	48.8	27.9	-4.6	8.9	61.4	29.6	-20.7

〔近畿地方〕

滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.5	59.6	35.9	-31.4	18.4	48.2	33.5	-15.1	4.9	55.5	39.6	-34.7
製造業	1.7	56.9	41.4	-39.7	20.7	44.0	35.3	-14.6	2.6	53.4	44.0	-41.4
非製造業	7.0	62.0	31.0	-24.0	16.3	51.9	31.8	-15.5	7.0	57.4	35.7	-28.7

〔北海道・東北地方〕

北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.4	58.5	37.1	-32.7	15.6	45.6	38.8	-23.2	8.2	55.1	36.7	-28.5
製造業	0.0	51.0	49.0	-49.0	9.8	44.1	46.1	-36.3	6.9	48.0	45.1	-38.2
非製造業	6.8	62.5	30.7	-23.9	18.8	46.4	34.9	-16.1	8.9	58.9	32.3	-23.4

〔中国地方〕

鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	5.4	66.1	28.5	-23.1	23.4	43.5	33.1	-9.7	10.5	58.6	31.0	-20.5
製造業	4.4	60.2	35.4	-31.0	20.4	39.8	39.8	-19.4	10.6	56.6	32.7	-22.1
非製造業	6.3	71.4	22.2	-15.9	26.2	46.8	27.0	-0.8	10.3	60.3	29.4	-19.1

〔関東・甲信越地方〕

茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	6.1	65.8	28.1	-22.0	23.1	49.1	27.8	-4.7	9.4	61.6	29.1	-19.7
製造業	5.7	58.0	36.4	-30.7	18.2	47.7	34.1	-15.9	8.7	55.3	36.0	-27.3
非製造業	6.4	71.3	22.3	-15.9	26.6	50.0	23.4	3.2	9.8	66.0	24.2	-14.4

〔四国地方〕

徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	2.3	59.5	38.2	-35.9	16.2	49.7	34.1	-17.9	6.4	53.8	39.9	-33.5
製造業	1.3	59.2	39.5	-38.2	15.8	47.4	36.8	-21.0	5.3	53.9	40.8	-35.5
非製造業	3.1	59.8	37.1	-34.0	16.5	51.5	32.0	-15.5	7.2	53.6	39.2	-32.0

〔東海・北陸地方〕

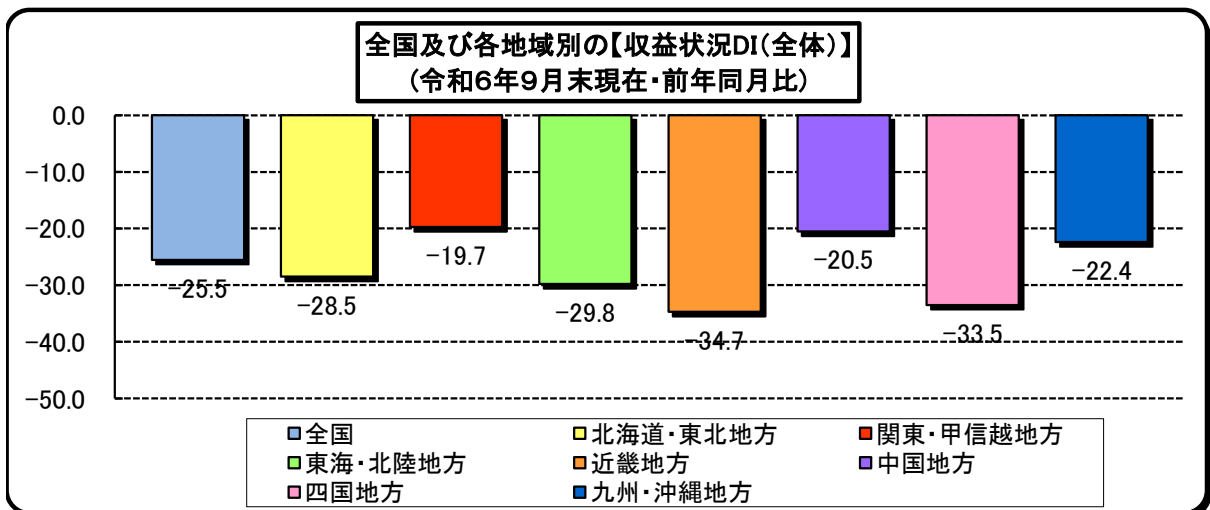
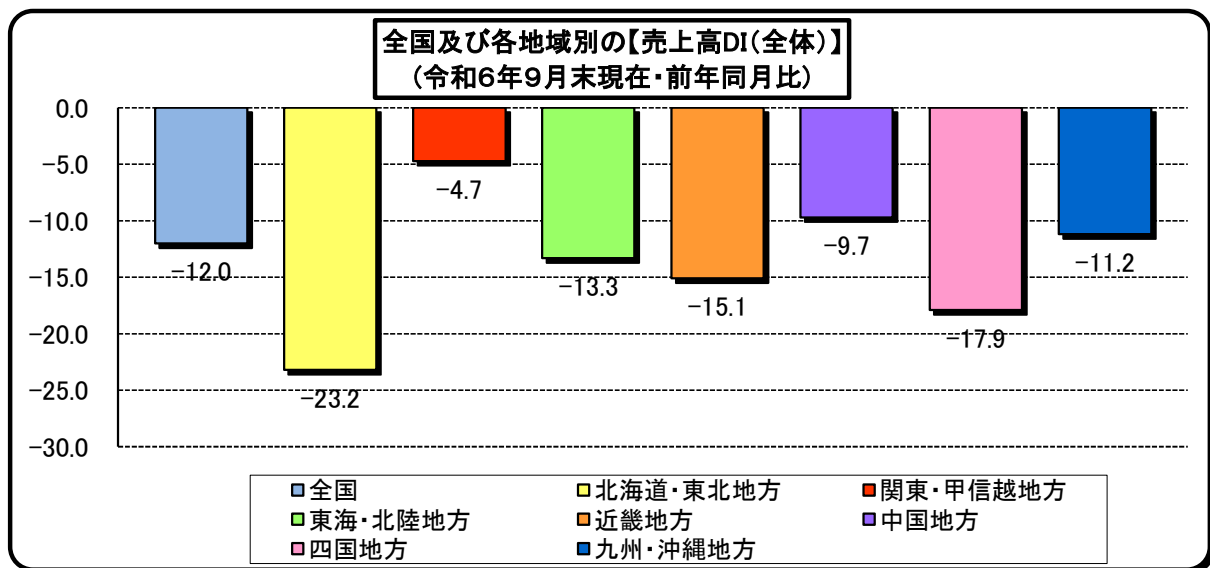
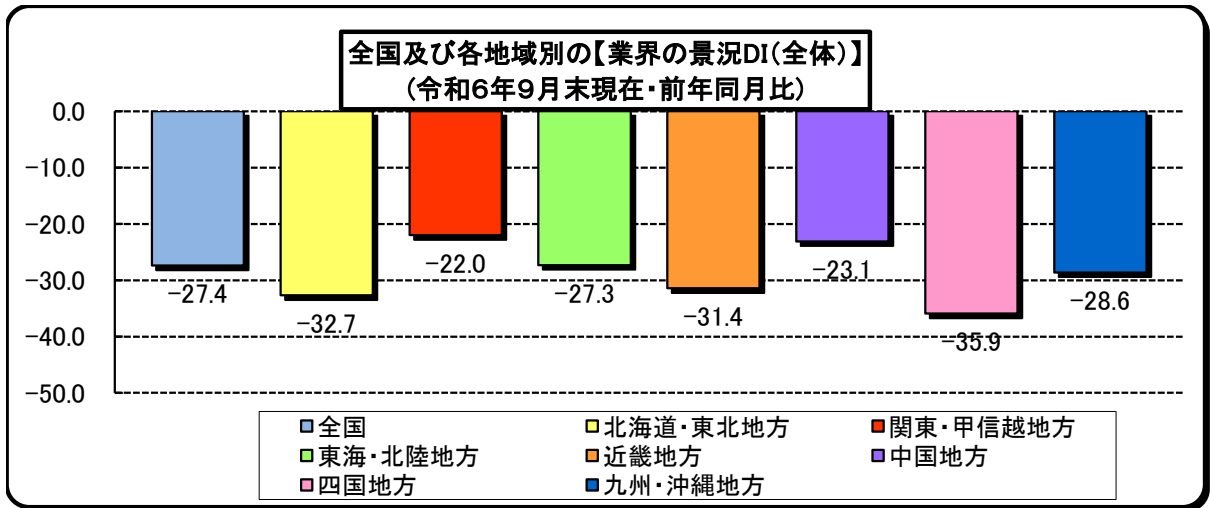
静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	5.9	61.0	33.2	-27.3	19.1	48.5	32.4	-13.3	5.9	58.4	35.7	-29.8
製造業	4.1	56.1	39.8	-35.7	14.3	45.4	40.3	-26.0	5.1	52.0	42.9	-37.8
非製造業	7.7	65.8	26.5	-18.8	24.0	51.5	24.5	-0.5	6.6	64.8	28.6	-22.0

〔九州・沖縄地方〕

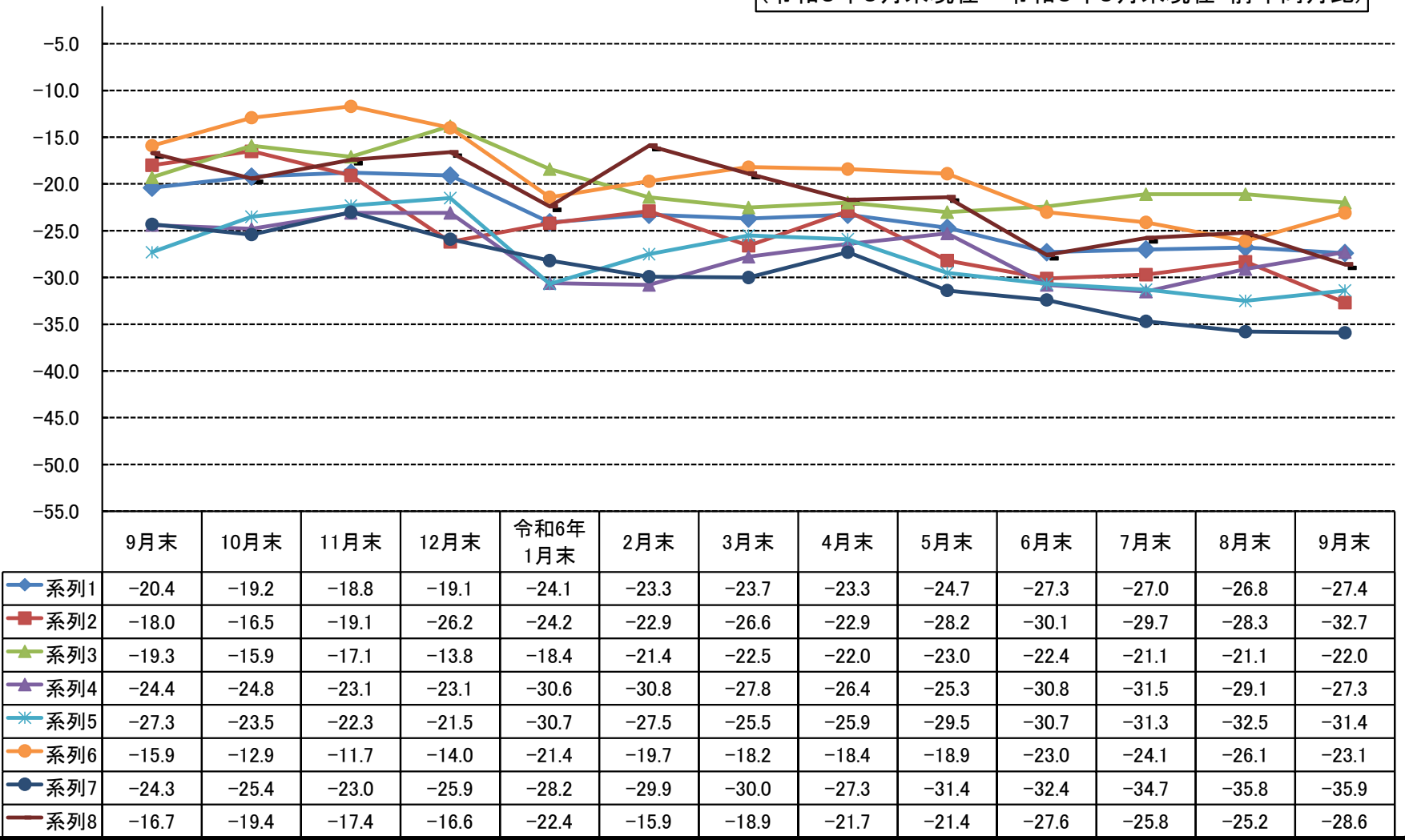
福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.8	61.8	33.4	-28.6	23.3	42.2	34.5	-11.2	9.4	58.8	31.8	-22.4
製造業	2.0	59.9	38.1	-36.1	18.4	38.8	42.9	-24.5	7.5	57.8	34.7	-27.2
非製造業	6.6	63.0	30.4	-23.8	26.4	44.5	29.1	-2.7	10.6	59.5	30.0	-19.4



- [北海道・東北地方] 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
- [関東・甲信越地方] 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県
- [東海・北陸地方] 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県
- [近畿地方] 滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県
- [中国地方] 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
- [四国地方] 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
- [九州・沖縄地方] 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】
(令和5年9月末現在～令和6年9月末現在・前年同月比)



- [北海道・東北地方(系列2)] 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
- [関東・甲信越地方(系列3)] 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県
- [東海・北陸地方(系列4)] 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県
- [近畿地方(系列5)] 滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県
- [中国地方(系列6)] 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
- [四国地方(系列7)] 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
- [九州・沖縄地方(系列8)] 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

※系列1は全国の数値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品

1. <岩手県 めん類 >
売上に関しては昨年並みで推移。今月より最低賃金が上がるので、仕入コストの上昇と人件費の高騰で益々利益の確保が難しくなっている。
2. <秋田県 菓子 >
9月は物価高騰の影響により商品の動きが鈍く、前年同月比で売上が減少している。原材料の値上げも続いているため、前月同様に厳しい状況が続いている。
3. <福島県 漬物 >
人件費、包装資材、添加物の値上がりも厳しい。また、値上げをしなければ採算が合わないため、値上げ時期を各社考えざるを得ない状況にある。
4. <愛媛県 珍味 >
売上については、前年同月とほぼ変わらない企業もあれば、増えている企業もある。しかし、原材料面については、輸入原材料の高騰や人件費高騰等が続いており、経営の面で厳しい状況は今後も続く予想される。
5. <鹿児島県 漬物 >
原料をはじめ資材等の値上がり状況は落ち着くことを知らず、経営状況は月を追うごとに厳しさを増している。その為、製品価格の見直しは必至で、各事業所はそのタイミングを計っている状況である。
6. <沖縄県 パン >
人件費高騰により収益が悪化傾向。今後、人件費上昇分をどのように回収できるか課題が大きい。人手不足はさらなる課題。取引先店舗は増えるが、配送人員不足が深刻な状況。

繊維工業

7. <群馬県 外衣・シャツ >
10月からの最低賃金上昇の影響を危惧。資材等の高騰も含め、収益悪化が予想されるため、加工賃や製品単価の値上げ交渉の実施を重要視している。
8. <東京都 帽子 >
帽子縫製職人の高齢化問題の他に、付属品業界も後継者不足で事業承継が困難な状況。そのため、組合事業として、新たに付属品調達の共同購買事業を検討している。
9. <静岡県 織物 >
受注はここ半年以上、綿・正絹製品ともに安定して入ってきている。機屋が減少する中、生産の平準化で凌いでいる。ここ数年のうちに織元による織機増設も検討中。
10. <京都府 織物 >
産地全体として低調な動きに変化なく、9月の白生地生産数量は対前年比84.9%であった。昨今の小売り市況の情報から推察するとまだまだ産地の厳しい状況が継続すると思われる。
11. <香川県 手袋 >
昨年以上に残暑厳しい9月であった。冬物新商品の出荷は始まっているが、昨年の在庫を多く抱える業者からの受注量は少なく、生産も少ない状況が続いている。
12. <熊本県 ニット製品 >
受注量が例年の2～3割ほどに留まり、通常通りの稼働もままならない厳しい状況になっている企業が複数社ある。従業員には休業手当でカバーしているが、売上がない状態で経費が膨らんでおり、不安しかない。

木材・木製品

13. <鳥取県 製材 >
製材品の生産量は先月比で横ばい。合板の生産量は先月比、前年同月比とも減少、合板については製造メーカーが8月以降値戻しに向けて生産調整に入っていることが影響しているようである。
14. <島根県 製材 >
住宅着工は増えず、他県大手メーカーやビルダーが出雲部へも進出し、既存製材所やプレカット工場は苦境に立たされている。営業力の強化が不可欠である。
15. <山口県 製材・木製品 >
組合員の平均売上額は、令和5年9月と比べ10%の減少。住宅需要の低迷等により製材品の売上減少が続く、それに伴い、設備操業度の低下も続いている状況。

16. <徳島県 製材 >
8月の持ち家着工は33カ月連続の前年同月割れという状況の中、特に国産材価格は一段と下げ気味となっている。特にスギ・ヒノキの柱・土台が弱い。
17. <宮崎県 製材 >
製材業は需要低迷により、厳しい状況が続いている。国内需要にあまり期待できそうになく、輸出を検討する必要がある。業界全体で新しいことにチャレンジできる環境づくりが大事だと考える。
18. <鹿児島県 木材・木製品 >
令和6年度上半期事業実績の対前年度比は、著しい減量・減益となった。下半期は需要低迷が長引くものと予測され、市況も好転の兆しに乏しく業界の苦戦は続くものと思われる。

紙・紙加工品

19. <茨城県 段ボール >
大手は前年並みの生産量をキープしているが、中小は前年より約1割ほど生産量が減少している。取引先の米菓関係の企業の廃業、倒産が増えてきており、今後の取引を懸念している。
20. <群馬県 紙製品 >
原材料メーカーの値上げ動向が再び顕在化する中、秋以降の物価高騰と消費者の買い控えを懸念している。また、長引く人手不足、電気料金の値上げ、配送運賃の高騰が深刻な状況となっている。
21. <東京都 紙製品 >
業界のトップ企業が商品1万アイテムの値上げを発表。今後、他のメーカーの追従も懸念される。また、消費者はインターネット購入の傾向が強くなり、実店舗の利用者が減り、組合員の経営は益々厳しい状況が続く。
22. <愛知県 段ボール >
青果物関係は、需要低迷の影響もあり総じて前年減。その他加工食品関係は、物価高騰による消費低迷の影響が依然強く、前年割れの様相。総じて当月の段ボール需要は、前年を下回ると予測される。
23. <岐阜県 紙加工品 >
物価高騰の影響で荷動きが想定以上に悪い。昨年同月比で売上が5%以上減少した組合員が多い。景況感は非常に悪く、厳しい経営状況となっている。9月も荷動きは悪く、売上回復の兆しはない。
24. <大阪府 古紙収集加工 >
9月も裾物3品の発生は相変わらず悪い。一部の製紙メーカーは8月の夏季休暇中に古紙の受入れを行い在庫の確保をした。古紙については予想以上に発生が悪く需給のバランスが崩れている。

印刷

25. <秋田県 印刷 >
9月の売上は、ニーズの変化に伴う紙の印刷需要の低下により落ち込んでいる。なお、今後も原材料の値上げが確実であり、価格転嫁ができるかどうか不安要素となっている。
26. <栃木県 印刷 >
需要が薄い中、用紙・資材・人件費等、上昇分の価格転嫁に苦慮している。今後、郵便料金値上げや新聞折り込チラシの引取り運賃加算などの影響が懸念される。
27. <大阪府 製本 >
景況は依然厳しい状況が続いているが、9月に入りようやく動き始めている。ただし、今後10月には人件費等々が高くなる中で、景況は依然厳しい状況が続く見込みである。
28. <兵庫県 印刷・同関連 >
受注件数の減少が顕著である。資材高騰による価格転嫁での値上げにも反して売上総額が減少しており、値上げしているのに総額が減っているということは、実需が相当に落ち込んでいると思われる。
29. <高知県 印刷 >
8月は低調だったが9月は持ち直し、売上増加、設備操業度上昇という良い結果となった。県外需要は好調を維持しているが、一部の業界で落ち込みも見られた。県内需要も全般に持ち直し傾向が見られる。
30. <長崎県 印刷 >
売上高は微増も原材料費・光熱費等の価格高騰の影響が続き、収益状況の好転までは至らない状況である。価格の適正化に向けて配布文書を共有し、転嫁率の回復を目指す取り組みを続けている。

化学・ゴム

31. <愛知県 高圧ガス >
大きな変動は無く、販売量、販売金額とも例年並みの実績で推移した。炭酸ガスについては製造プラントの停止、休止の影響で通年の玉不足が顕著となっている。
32. <富山県 医薬品 >
地震に加え豪雨災害もあり、能登地域を廻商する配置販売業者の中には、珠洲市や輪島市の得意先の7割以上を無くした業者もいる。

33. <兵 庫 県 ゴム製品 >
市場の動きが鈍い。ここ数年は夏の暑さが長く続くこともあり、秋冬物商戦に悪い影響を及ぼしている。受注状況が芳しくなく、今後も苦戦が予想される。
34. <島 根 県 プラスチック製品 >
新規金型受注や新製品の開発案件などの受注は堅調で、新規引き合いも継続している。同業他社の廃業や規模縮小（従業員不足）などの経営状態悪化から自社へ転注される動きが多くあり、対応に追われている。
35. <岡 山 県 ゴム >
自動車メーカーの操業は戻りつつあるが、まだ前年並みまでは回復していない。労務費の価格転嫁については、ほぼお客様のご了解をいただいているが、更なる最低賃金の上昇による経営への影響は大きい。
36. <広 島 県 プラスチック製品 >
プラスチック製品の主要需要先である自動車産業界からの受注量がなかなか回復せず、設備稼働も横ばいで全体的に景況感が重い。

窯業・土石製品

37. <北 海 道 砕石 >
販売価格は前年に比べて上昇したものの、運賃や人件費等のコスト上昇から収益は低調の状況が続いている。空知地域では、公共事業の減少や再生骨材の普及により、砂利のニーズは減少傾向にある。
38. <山 形 県 コンクリート製品 >
年度当初より販売価格が原材料価格の上昇に追い付いておらず、そのうえ価格転嫁が他業界よりも遅れているため、原材料価格の上昇分に加え、賃金上昇分の値上げを粘り強く進めていく必要がある。
39. <千 葉 県 生コン >
建設現場の人手不足などによる工程や着工の遅延により、出荷が落ち込んでいる。原材料費、人件費、設備投資など、すべてコストアップとなり、生コン価格への転嫁が追い付かず、経営を圧迫している。
40. <山 梨 県 骨材・石工品等 >
前年同月と比べ売上は▲9%、収益状況は▲12%となった。原材料等の価格高騰分を十分に転嫁できていないため、年内も視野に入れた製品価格の値上げを検討している。
41. <愛 知 県 陶器 >
茶器・食器類の製造元は好転しつつあるが、建築陶器関連は価格の上昇が見込まれないため、収益状況は厳しい状況が続いている。
42. <和 歌 山 県 セメント・同製品 >
単月で見ると前年と同等の需要動向であった。高速道路工事が下支えとなっている。この景況感の影響で民需・官需とも全体的に工事規模が縮小傾向にある。

鉄鋼・金属

43. <宮 城 県 機械金属 >
大手企業の設備投資意欲が鈍く、売上が減少傾向にある。10月からの最低賃金引き上げ等によって中小企業は更に経営が圧迫され、厳しい状況が続くと予想される。
44. <福 島 県 鉄構 >
前月に続いて全鋼材が高止まりしており、建設業界全体が徐々に衰退しつつある事を感じざるを得ない状況。鋼材高騰等の煽りと人件費高騰により、鉄骨構造の建築がかなり減ってきている。
45. <茨 城 県 鉄鋼 >
9月の売上高は対前年同月比で1割程度減少した。建築資材関係・機械部品等の受注が増えてきたが、前年の水準には達していない。半導体部品・半導体製造設備関連の部品の受注量もまだ回復せず、低水準である。
46. <千 葉 県 鉄工 >
自動車関連、産業機械全般に受注は低迷が続いている。材料高騰が続いており、買い控えや人手不足等により生産活動が滞っていることも要因と思われる。
47. <神 奈 川 県 工業団地 >
業績は好転の兆しが見えてきたが、猛暑と稼働率アップが重なって電気代や燃料代の高騰が収益を圧迫している。特に電気代は2倍程度と異常な額になっている会員もある。
48. <徳 島 県 鉄鋼 >
業況は、やや持ち直しの傾向を示しており、現況においても設備操業度が上向きに改善している。ただし、人材不足による需要の取りこぼしが懸念される中、人件費の上昇が収益をも圧迫している。

一般機器

49. <群 馬 県 はん用機械器具 >
自動車関連は低迷が続く一方、半導体関連分野で成長が見られる。コロナ禍で早期にリスク分散を行い、新たな分野へ進出した企業の成長がみられる。

50. <新潟県 機械器具 >
短期的な受注増があっても大きな先行きに向けた動きはまだ見られない。運送費や様々なコスト高も続いており、経費や人件費等コストアップにより利益が減少している企業が多い。
51. <山梨県 業務用機械器具 >
前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲25%となった。業界全体で厳しい状況が続いているが、9月に入り、景況感のさらなる悪化を感じる。原材料等の価格も高止まりしており先行きは不透明である。
52. <岐阜県 工業団地 >
工業団地の中小企業の景況感を表すDI値は2カ月連続でマイナスとなった。売上高は減少企業が大幅に増加し、販売価格は多くの企業で上昇しているものの、材料費の高騰により収益状況は悪化企業が増えている。
53. <三重県 一般機器 >
EV関連の動きが鈍く、受注は昨年と比べると減少傾向、売上が上がらないのに原材料や賃金は高騰しており、悪循環となっている。長期動向もあまり期待できないため我慢するしかない状態である。
54. <兵庫県 業務用機械器具 >
売上は少しずつ増えているものの、製造原価の上昇も激しいので利益を確保するのは難しい。賃上げをしたいのはやまやまだが、価格の見直しはもどかしいほどゆっくりしか進まない。

電気機器

55. <長野県 電子機械器具 >
自動車部品関連では、自動車販売台数の低迷により依然として回復には至っていない。精密部品主体の企業は、自動車関連から多方面への転換が求められており、先行して対応した企業は売上が伸びている。
56. <山梨県 電気機械器具 >
前年同月と比べ売上は10%増加、収益状況は5%好転した。年末にかけて10%ほどの売上増加を見込んでいるが、機器の購入価格も5~10%ほど値上がりする予測であるため、収益状況はやや好転すると考えている。
57. <静岡県 電気機械器具 >
9月の生産は、冷蔵庫は久しぶりに昨年並みに回復、家庭用エアコンと業務用エアコンは西日本を中心に気温が高く販売が上振れして3カ月連続してプラスとなった。
58. <富山県 電子部品・デバイス >
原材料価格や輸送費などの値上がりが継続しているため、再度顧客との価格交渉を行っている。数件の顧客は値上げを承認してくれたため、販売価格は上昇している。電子部品市況は、回復の兆しがある。
59. <京都府 電機機械器具 >
原材料の高騰が継続する中、価格転嫁の進展は認められるが、人件費や労務費分の転嫁に難航している。受注拡大に注力しているが、負荷増大に対応する人材の確保が困難な状況により苦慮している。
60. <兵庫県 電子部品・デバイス >
国内の自動車販売は、前年同月比0.3%増加し2カ月ぶりに前年実績を超えた。一方、米国の販売台数は、新車価格の高騰、借入コストの上昇、9月後半のハリケーン被害により、前年同月比12.3%減と減少した。

輸送機器

61. <愛知県 輸送機器 >
大きな動きはなく前月同様、受注減少は続いた状況下にある。10月から最低賃金の引上げもあり小規模事業者ほど苦しい。パート・アルバイト等については、年収の壁の問題が今後年末を迎え生じてくる。
62. <兵庫県 輸送用機械器具 >
前年同月比26.1%の減収と、2024年1月からでは3番目に低い売上高であった。部門別には船舶関係が35%、機械関係が11%減収と数値が大きかった。他部門は増収であったが、売上高減のカバーはできていない。
63. <山口県 鉄道車輛・同部品 >
鉄道車両関係の受注量は2024年度下期以降減少となる見通し。2026年度から台湾新幹線の受注見込みがあるものの確定までは至っていない。人件費や原材料費・電気料等の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。
64. <愛媛県 造船 >
マンパワーが不足しているという組合員が多く、人材確保に力を入れている。雇用については年々厳しくなっており、特定技能だけでなく、技人国ビザ等の就労ビザでの受け入れ相談が増えている。
65. <長崎県 輸送機器 >
造船関係は、新規工事 やタービン関係の作成工事の受注があり 年内の工事量を確保している。またアフターサービスなど出張で行い、先月予定より多少工事量が増えている。また、作業人員も多少増員している。
66. <大分県 造船 >
建造船のタイプ変更に伴い、職種により増員中。その中、新規従業員の雇入れ単価が上昇しているが、現在働いている従業員の単価との差が生じており、難しい対応となっている。

その他の製造業

67. < 秋 田 県 曲げわっぱ >
9月の売上は、前年同月並みであった。材料の仕入れについては、高樹齡材の伐採が少なく、仕入先となる製材所や市場等に良材が入荷していないため、組合員企業が苦労している。
68. < 東 京 都 ガス圧接 >
稼働率の下限値が50%と下降している。また、徐々に現場が減少している。残業時間の上限規制により、仕事を調整しており、現場への影響が生じてきている。
69. < 神 奈 川 県 工業中心の複合業種 >
先月に続き、好転材料は見当たらない。業種に関わらず比較的早く業務を終了している。大手の動きは悪くないようであるが、下請けまではまだ回ってこない様子。年内の廃業を考えている企業も出てきている。
70. < 愛 知 県 アウトソーシング >
各自動車メーカーの生産において、海外輸出の伸びが良くないため、生産数においても厳しい状況が続く。そのため残業が見込めず他業種へ転職者が増加している。下期の自動車生産数に期待したい。
71. < 富 山 県 漆器 >
県内だけでなく、首都圏での展示会やPR活動も活発に行われ、秋に向けてイベントが増えることから、今後の需要の増加に期待している。
72. < 香 川 県 漆器 >
今年に入って材料等の資材が特に値上がりしているため、販売商品も値上げする方向に事業の見直しをせざるを得ないようになっている。売上も漆器家具全体に低迷している。

《非製造業》

卸売業

73. <岩手県 水産物 >
9月の水産物取扱高は、取扱量750t（前年同月比5.0%減）、取扱金額974百万円（前年同月比6.2%減）であった。9月になっても暑さは続き、大雨等の影響もあり、鮮魚の取扱量は前年同月比5.8%減となった。
74. <宮城県 再生資源 >
9月の鉄スクラップ国内相場は大幅下落局面となった。月初から断続的に電炉メーカーの値下げが発表され、2021年の年初以来の安値水準である。海外需要が減退して需給が緩んだことが主な下落要因だった。
75. <秋田県 野菜青果 >
9月の売上は、異常高温の影響を受け、青果物の流通量が相当数減少したため、前年同月比で約80~85%となった。今後も1~2カ月程度は、青果物の流通量は不安定な状況が続くと想定される。
76. <新潟県 袋セメント >
9月の出荷実績は、前年同月比で65.7%と例年にならぬほど激しい落ち込みとなり、今月以降の収益にも影響を及ぼしそうで心配である。4~9月の今年度の累計出荷数は、前年度比で83.3%の落ち込みとなっている。
77. <石川県 その他 >
9月度の売上高は昨年対比84%と今期6月から前年度を下回る状況が続いている。中国需要の低迷が一番の大きな要因だが、地震や自然災害により地元消費の落ち込みも影響している。
78. <沖縄県 青果 >
9月期は台風接近の影響もあり、県内は天候が悪く量販店含め引き合いは良くなかった。全国的にも猛暑の後の降雨といった天候不順となり、仕入価格が高騰したため、収益には結びついていない。

小売業

79. <青森県 食料品 >
秋の収穫祭等のイベントに出店しているものの、当日の天候により客数と売上が芳しくなかった。また、穀物の出来、不出来により在庫や値段の不安定さを感じる。特に今後は米の状況を注視していきたいと思う。
80. <栃木県 食肉 >
世界各国の食肉の需要が高まり、為替との関係で輸入品の高値が続いている。又、異常気象による気温の上昇で食物の発育が悪く、国内の食肉価格が史上高値になっている。
81. <東京都 青果 >
猛暑の影響で多くの野菜価格が値上がりし、特に葉物類への影響が大きい。仕入価格の上昇により価格転嫁ができず、仕入価格以下で販売している商品もあった。
82. <奈良県 スポーツ用品 >
物価高騰や原材料費の上昇が影響し、メーカーから体操服や体育館シューズ等の価格改定（値上げ）の通告が相次いでいる。運動会の規模縮小や時間短縮が消耗品の需要減少につながり、新たな注文が減っている。
83. <大阪府 二輪自動車 >
販売台数は依然として低迷している。特に50ccスクーターは来年の排ガス規制により生産台数を絞り込んでいるため品薄であり、需要とのギャップが生じ、中古車取引価格も上昇し始めている。
84. <広島県 各種商品 >
当月は天候が良く客数・売上ともに安定していた。スーパーマーケットの週末売り出しによって施設全体の客数は順調に伸びており、前年以上の売上が確保できている。

商店街

85. <茨城県 商店街 >
原材料費などの仕入価格が上昇しているが、買い控えを懸念して十分な価格転嫁ができていないため、収益の確保に苦慮している状況が続いている。
86. <埼玉県 商店街 >
街区内の飲食店が閉店した。一方業態の変更も進み、今後も競争が進んでいく事が予想される。チェーン店の進出で、老舗のお店がますます苦境に立っている。最適なテナントミックスができるか課題である。
87. <福井県 商店街 >
イベントの日は来街者数が増えるが、それ以外の日は人通りが少なかった。空き店舗に飲食店が入り開業準備を進めているなど明るい話もあるが、商店街には営業していない店が多かったりと課題はまだある。

88. < 滋賀県 商店街 >
 厳しい残暑にお客さまもお疲れモード。依然、景気の低迷を感じる。観光や通勤通学には通るが、買い物に来たのではなく、日差しや雨を避けられる快適な通り道として使われている感じだ。
89. < 福岡県 商店街 >
 6月26日からプレミアム商品券を発行したが、売れ行きは好調で9月4日に完売した。酷暑が続いているが、インバウンドと共に商店街への人出も増えてきており、アーケード内も活気が戻ってきている。
90. < 佐賀県 商店街 >
 学生の夏休み期間が終了し人通りが少なくなり、平日の賑わいが減った感じが寂しく見える。24時間営業の激安スーパーも夜中から明け方にかけての客数も元に戻ったように見える。

サービス業

91. < 北海道 土木・建築サービス >
 当年度の累計受注契約総額は、前年度に比べて1割程度増えている。適切な価格交渉も見受けられるようになり、収益の改善を目指して市場単価調査への積極的な参加に取り組む組合員も多くなってきた。
92. < 神奈川県 温泉旅館・ホテル >
 8月末の台風は、9月1日、2日まで影響を残し、キャンセルが発生した。9月は3連休が2回あり、売上に大きく貢献した。外国人旅行者が再び多くなっており、特に中国からの家族旅行が目立つようになった。
93. < 山梨県 警備 >
 土木建築関連の警備依頼が好調で、前年同月と比べ売上・収益状況ともに3%好転した。警備員不足により受注を制限せざるを得ない状況であり、新規採用に力を入れる必要性を感じている。
94. < 愛知県 警備 >
 警備業界は夏から秋にかけて繁忙期に入り需給バランスが需要増に傾いたため販売価格が上昇に転じてきた。これに伴い収益、景況とも好転している。
95. < 京都府 旅館 >
 9月中旬から海外観光客・国内観光客・修学旅行生の宿泊数が順調に増えている。売上高としてはコロナ前に及ぶ状況にあるが、運営面では人材の確保が急務であり、まだまだ良好とは言えない。
96. < 愛媛県 ホテル >
 前年同月が弱かったこともあるが、対前年は大幅増となった。連休もあり、団体・インバウンド等の需要が高く好結果となった。インバウンド（特に韓国）は継続して好調である。

建設業

97. < 宮城県 硝子 >
 材料の輸送コスト増加分を請負価格になかなか転嫁しづらい状況だ。請負価格も競争が激しく、下げないと受注につながらない。10月から一部材料の値上げの話もあるので、さらなる業績悪化が心配だ。
98. < 福島県 建設 >
 土木・建築工事共に発注が少なく、前年より受注が減少している。資材高により民間の設備投資は慎重になっており、工場・倉庫等の新設・増設物件も減少している。
99. < 群馬県 一般土木建築工事 >
 酷暑で生産性が低下するとともに、労働時間の確保が困難となっている。また、担い手不足や高齢化、賃上げ、労働時間規制の影響もあることから、労務単価や適正工期の改善が望まれる。
100. < 富山県 電気工事 >
 引き続き住宅着工件数は低調であるが、リフォーム・修繕が増加傾向にある。公共工事や設備投資が増加しているため、下期には収益改善が期待される。
101. < 和歌山県 設備工事 >
 大きな変化はないが、資材であるケーブルの納期が1～2カ月、高圧ケーブルになると半年近くかかる。まだまだ追いついていない状況にある。
102. < 香川県 総合建設 >
 原材料価格の高騰は依然落ち着く気配が感じられない。高コスト化が慢性的に続いているが、発注者への価格転嫁はしづらいため、利益を圧迫している。また、人手不足も改善の見込みがない。

運輸業

103. < 北海道 一般貨物自動車 >
 農産物の繁忙期のため荷動きは良いが、需要に応えられるだけのトラックが手配できず、売上が思ったほど伸びない。運賃は値上がりしているが、外注運賃や車両価格、修理代の値上がりの方が大きく、収支は厳しい。
104. < 岩手県 倉庫 >
 9月の事業収入は、対前年同月比で常温品倉庫扱い85.5%、冷蔵品倉庫扱い86.5%であり、全体で86.5%と12カ月連続で前年収入を下回っている。一方、秋から年末に向け増加傾向の受寄物があり、動きは出ている。

105. <秋田県 トラック >
9月の荷動きの状況は、前年同月比50%、前年比80%となった。輸送スタイルが変化しており、関東圏までを対象とする事業者や地場仕事を多く行う事業者が増加し、長距離輸送を行う組合員企業は少なくなっている。
106. <栃木県 貨物自動車 >
地域内の輸送量が減少傾向にあり、遠方への輸送ではコスト面を考えると収益減となっている。燃料価格についても支援額が下がっており、今後支援額が減ることで燃料代が増えてくることが考えられる。
107. <新潟県 一般乗用旅客自動車 >
9月は8月に引き続きやや低調な実績となった。9月はもともと平均的な実績の月となるが、暑い日が多く需要の拡大を期待したところ、逆の結果となった。
108. <静岡県 道路旅客 >
運送収入は前年同月比で9.5%上回ったものの、令和元年度との比較では▲19.3%と低調。さらに輸送人員については▲33.4%で前月の▲26.4%よりも低い状況。猛暑や天候不良により旅客需要が落ちている。

その他の非製造業

109. <千葉県 輸出入 >
先月と比較し全体的に客数は減少し、成田空港第1ターミナル及び第2ターミナルの両店舗合わせて15%ほど売上減になった。平日の落ち込みが大きいので、客単価の上昇を目指し、商品の入れ替えを考えている。
110. <神奈川県 不動産 >
不動産業界においても7～9月前半は売上が厳しい時期ではあるが、今年は8月後半から売買・賃貸とも売上が上昇している。良い傾向ではあるが、年末にかけての繁忙期に影響が出るのではないかと懸念もある。
111. <新潟県 砂利採取 >
令和6年9月度の骨材生産量は、前年同月比で96.6%、前年累計比で107.4%であり、ようやく目標の前々年の需要に近づいてきた。価格転嫁も浸透してきているが、賃上げ原資の確保には至っていない。
112. <奈良県 質屋 >
金の価格は、中東情勢の悪化や米国の利下げにより上昇傾向にある。円安の影響でジュエリーや高級時計、ブランドバッグの相場は堅調に推移しており、インバウンド消費が活発化している。
113. <岡山県 信用組合 >
9月も原材料高騰等による影響を受けている企業については資金繰り支援を強化している。11月にしんくみビジネスマッチングも開催することから本業支援も強化していく。
114. <広島県 不動産 >
不動産市場については、マンション販売が一時期に比べ鈍化している。これからの新築マンション価格は、建築資材の高騰や人手不足の影響によるコスト上昇に伴い、販売価格も上昇すると思われる。